

HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン : 5.0

はじめに

ビルド番号 : 341



法的制限事項

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HPからの有効なライセンスが必要です。

FAR12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

著作権

(c) Copyright 1994-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

前書き	11
1. AssetCenterの基礎	13
本書で使用される表記法	14
オンラインヘルプの使い方	14
データベースの概要	16
2. AssetCenterを初めて使用する	21
AssetCenterを起動する	21
データベースへの接続	23
データベースとの接続を解除する	26
AssetCenterのワークスペース	26
レコードリスト	31
レコードの詳細情報	49
レコードの処理	56
データの編集	64
3. テーブル内で項目を検索する	73
クエリウィザード (QBE)	73
検索用フィルタの概要	74
Windowsクライアントのフィルタ操作	76
Windowsクライアントのフィルタの使用	77

Windowsクライアントに1つまたは複数のシンプルフィルタを適用する . . .	79
Windowsクライアントにクエリフィルタを適用する	80
4. ウィザードの概要	83
ウィザードの定義	83
ウィザードのユーザ	84
ウィザードの分類	84
ウィザードの作成	85
ウィザードの使用	85
5. スケジュールのグラフィック表示 (Windowsクライアント)	87
概要	87
スケジュールのグラフィック表示のページの使用	88
実用例	90
スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする	93
6. データの印刷	95
概要	95
リストの情報を印刷する	96
レコードの詳細の印刷	97
印刷プレビュー	98
7. WindowsクライアントとWebクライアントの違い	99
概要	99
最小のクライアントインストールと構成	100
AssetCenterデータベースへの接続	100
クライアント間の違い	101
8. 参考情報	119
接続	119
アクション	122
メッセージ	124
履歴	125
アラーム	126
マウスを使用しないナビゲーション	127
エラーメッセージ	127

インデックス 129

図の一覧表

2.1. [部署と従業員] テーブル - ツリー構造	34
2.2. 従業員のテーブル - リストの並べ替えツール	39
2.3. 「リストと詳細」モードでの表示	50
2.4. レコードを作成する	58
3.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ	75
3.2. クエリの作成画面	80
5.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面	88
5.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例	92

表の一覧表

2.1. 特殊フィールド - 列の色	42
3.1. 比較演算子	77

前書き

本マニュアルではAssetCenterの使用方法に慣れることに主眼を置いています。本書では、AssetCenterの使用時に実行する基本操作を詳しく説明します。

本マニュアルは、画面上操作のため参考書の役割も果たしています。

次章以降では、ソフトウェアの画面上での操作方法が説明されています。

本マニュアルは主に以下のユーザを対象にしています。

- 初級ユーザ
- 新規機能が追加されたAssetCenterの新規バージョンのユーザ

1 AssetCenterの基礎

AssetCenterは、複数のモジュールから構成されるIT技術管理システムで、各モジュールは共通のリポジトリに統合されています。AssetCenterではポートフォリオを管理できるだけでなく、ポートフォリオ内の各品目のライフサイクルに関連するイベント（資産の取得や、税金、TCO、メンテナンス契約、作業指示などのコストの管理）も管理できます。

「統合」ソフトウェアであるAssetCenterでは、同じインターフェイスから全機能へアクセスすることができ、また単一のデータベースを使うため情報が重複しません。更に、必要な機能のみを選択してインターフェイスを変更することができます。この結果インターフェイスは簡略化されます。

重要項目:

利用可能な機能のリストは、HPから取得したライセンス権限によって異なります。

AssetCenterデータベースには次の方法でアクセスできます。

- Windowsクライアント経由
- Webクライアント経由

WindowsクライアントとWebクライアントには別々のインターフェイスがあり、機能も異なります。本書ではその違いについて説明します。

本マニュアルではAssetCenterの基本的な概念を説明しており、通読すれば本ソフトのグラフィカルインターフェイスにすぐに慣れることができます。

本書で使用される表記法

本書で使用される表記法は以下の通りです。

表記法	説明
Java Scriptコード	コードやコマンドの例
等幅フォント	DOSコマンド、関数のパラメータ、またはデータフォーマット
...	コードまたはコマンドの省略部分
注意: 補足情報は...	補足情報
重要項目: 以下の注意事項は...	重要な情報
ヒント: 使用上のヒント...	アプリケーションを使うヒント
警告: 警告情報	非常に重要な情報
[オブジェクト名]	AssetCenterのGUIオブジェクト：メニュー、タブ、ボタン

次の規則も適用されます。

- 操作の手順は、以下のような番号付きのリストで表記されます。
 - 1 手順1
 - 2 手順2
 - 3 手順3
- 図や表には、各章ごとに順番に番号が付いています。例えば第2章の4番目の図には「図2-4」という番号が付きます。

オンラインヘルプの使い方

AssetCenterの使用中に、オンラインヘルプを使って画面上でヘルプテキストを読むことができます。

情報を検索する際、複数のオンラインヘルプを使用できます。

標準オンラインヘルプ

Windowsクライアント

標準オンラインヘルプには、印刷版のマニュアルとほぼ同じ情報が含まれています。

オンラインヘルプを表示するには、AssetCenter画面をアクティブにした状態で [F1] キーを押します。

注意:

Basicスクリプト（ソフトの一部の操作をカスタマイズし系統立てるための簡易プログラム）に特化したオンラインヘルプもあります。Basicスクリプトの編集用ウィンドウで、[F1] キーを押すと、スクリプト用のヘルプであるAssetCenterの『プログラマーズリファレンス』が表示されます。例えばスクリプトの作成中に、Basic関数の正確なシンタックスを忘れてしまった場合、スクリプト内の関数の名前を選択し [F1] キーを押します。すると、『プログラマーズリファレンス』の中からこの関数に関する説明が表示されます。

Webクライアント

この機能は使用できません。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプ

Windowsクライアント

フィールドまたはリンクの状況依存ヘルプには、次の情報が表示されます。

- フィールドまたはリンクのSQL名
- データ型およびデータの入力形式
- フィールドまたはリンクについての説明
- 入力値の例
- 重要な情報：データ入力時の注意、自動処理機能など
- システムのリストデータ値
- カスタマイズ可能なリストデータの識別子
- リンクしているテーブル

状況依存ヘルプは、次に示すいくつかの方法で表示できます。

- カーソルをフィールドまたはリンクに置いてから、[Shift] キーと [F1] キーを同時に押します。
- フィールドまたはリンクに移動し、マウスの右ボタンをクリックしてショートカットメニューを表示し、[フィールドのヘルプ] メニューを選択します。
- フィールドまたはリンクに移動し、[ヘルプ / フィールドのヘルプ] メニューを選択します。



注意:

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプの内容は、印刷版マニュアルには記載されていません。このオンラインヘルプの内容は自由にカスタマイズできます。

Webクライアント

この機能は使用できません。

ワンポイント

Windowsクライアント

このオンラインヘルプは、AssetCenterの起動時にソフトウェア使用上のヒントを表示します。

[ワンポイント] ウィンドウの [スタートアップ時に表示する] チェックボックスをオフにすると、この機能を無効にできます。[次へ] ボタンをクリックすると別のヒントを表示できます。

[ヘルプ/ワンポイント] メニューを選択すると [ワンポイント] のウィンドウをいつでも表示できます。

スタートアップ時にワンポイントを表示するには、[ヘルプ/ワンポイント] を選択してから [スタートアップ時に表示する] オプションを選択します。

Webクライアント

この機能は使用できません。

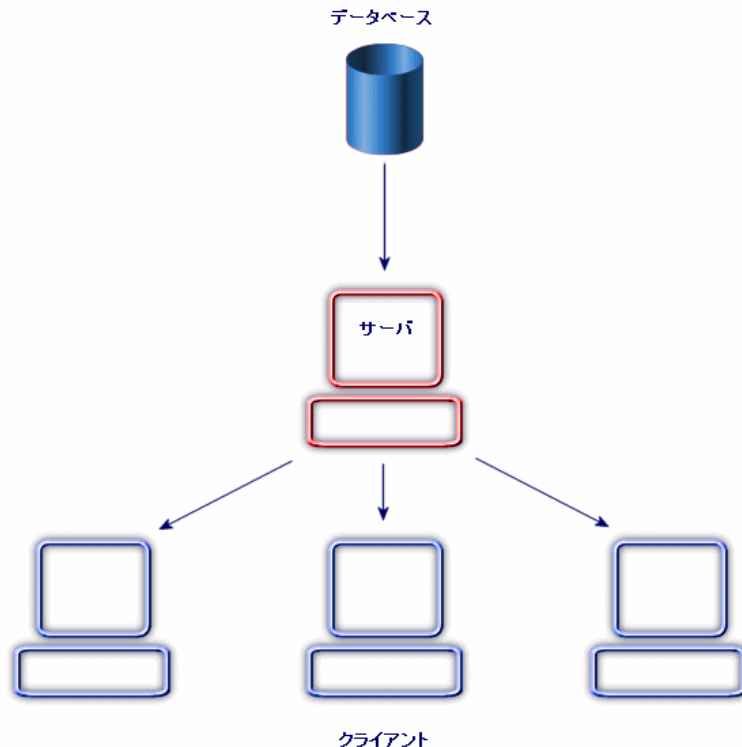
データベースの概要

AssetCenterは、データベースと連動させて使用します。AssetCenterのワークスペースと特にデータベースインタフェース機能は、データベースの複雑な構造ができるだけユーザの目に触れないように設計されています。しかし、データベースに関する基本的な知識があれば、AssetCenterマニュアルでしばしば使用される概念の理解に役立ちます。

データベースの定義

データベースは、データの重複を避けつつデータを構造的に格納するエンティティです。データはプログラム（この例ではAssetCenter）やユーザにより使用されます。データベースの概念は、データベースの情報を共有化するネットワークの概念に頻繁に関連付けられます。この場合、データベースは分散データベ

スと呼ばれ、情報は複数の遠隔コンピュータに格納され、あるユーザグループがネットワーク経由でアクセスできるようになっています。この反対はローカルデータベースで、これは1台のコンピュータにインストールされており、コンピュータのユーザのみがアクセスできるデータベースを指します。分散データベースの利点の1つは、複数のユーザが同時に格納された情報にアクセスできることにあります。



データベース管理システム

データと、データにアクセスするユーザを管理するには、DBMS (データベース管理システム) を使用します。DBMSの使用により以下の操作が可能になります。

- データを保存する。
- データにアクセスする。
- ユーザのデータへのアクセスを管理する。
- データに基本的操作を実行する。
 - 挿入：データの追加

- 削除：データの削除
- 変更：データの変更
- データの検索

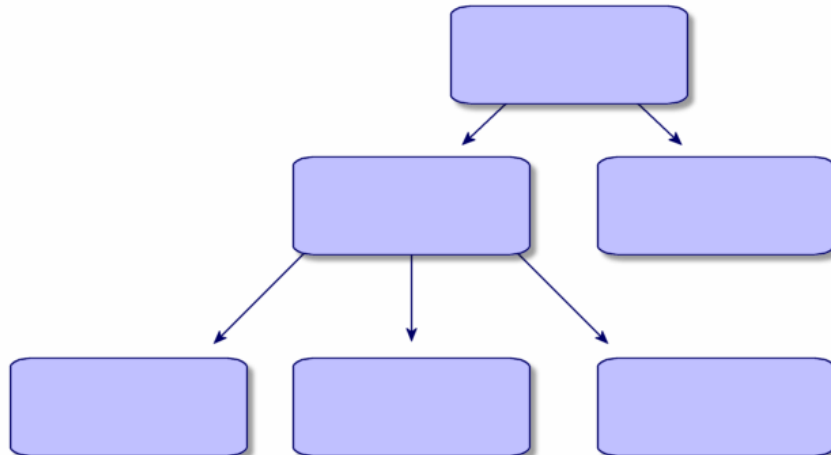
AssetCenterは、市場で入手できる主なDBMSとの互換性があります。

データベースのモデル

情報を系統立てて編成するには、一般的にデータベースの2つの主要モデルが使用されます。

階層型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが降順のツリー構造で階層的に編成されています。



関係型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが行と列を含むテーブル内に編成されています。

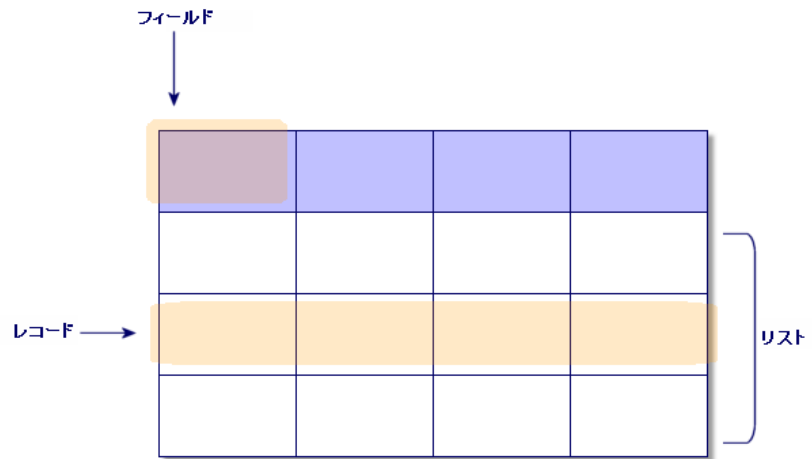
データベースの各要素は以下のように定義されます。

- レコードは、テーブル内の1行にあるデータ全体を指します。
- フィールドは、テーブルの列のタイトルに当たります。
- フィールド値は、テーブル内の1セルの値に当たります。

AssetCenterでは更に、2つの補足的概念が導入されています。

- リストは、レコード全体の部分集合から構成されます。

- 詳細は、1シート内の1レコードの情報をまとめ、論理的な方法で分類します。



ここで説明されている概念は、AssetCenterの使用にあたり非常に有用です。

2 AssetCenterを初めて使用する

本章ではAssetCenterのワークスペースに慣れることに主眼を置いています。ここでは特に、AssetCenterを初めて起動するときの基本操作を詳しく説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- WindowsクライアントまたはWebクライアントを使って、データベースに接続します。
- AssetCenterのワークスペースを使用する
- データの標準の表示方法（リスト、詳細など）を使用し、設定する
- データベースに新規データを入力し、レコードを変更する

AssetCenterを起動する

Windowsクライアント

次のいずれかの方法でAssetCenterを起動します。

- オペレーティングシステムの [スタート] メニューを使う。
- コマンドラインから起動する。

Windowsの [スタート] メニューから起動する

[スタート] メニューからプログラムを起動する方法は、インストール時に選択したプログラムグループにより異なります。

デフォルト値を使ってインストールした場合は、[スタート / プログラム / **HP OpenView / AssetCenter 5.00 / HP OpenView AssetCenter**] を選択してAssetCenterを起動します。

AssetCenterの複数インスタンスを起動する

プログラムの複数インスタンスを起動することができます。

コマンドプロンプトから起動する

AssetCenterをDOSのコマンドプロンプトから起動するには、次の手順に従います。

- 1 例えば [スタート / アクセサリ / コマンドプロンプト] メニューを選択して、DOSのコマンドプロンプトを開きます。
- 2 AssetCenterのインストール先フォルダのサブフォルダ「bin」へ移動します。例えばAssetCenterをデフォルトフォルダにインストールする場合、次のコマンドを入力します。

```
cd C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\bin
```

- 3 任意のコマンドラインを入力し、[**Enter**] キーで確定します。AssetCenterを起動するには、次のシンタックスを使用します。

```
am [-?|h|H] [-cnx:<connection>] [-login:<login>] [-password:<password>] [-view:<view>] [-config:<configuration>]
```

パラメータ

- -?, hまたはH : このヘルプメッセージを表示します。
- -cnx : データベース接続名 ([ファイル / 接続の管理] メニューを選択すると表示される接続の詳細画面の [接続] タブページ / [名前] フィールド)
- -login : データベースに接続する従業員のログイン ([ポートフォリオ / 部署と従業員] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [プロファイル] タブページ / [ユーザ名] (SQL名 : UserLogin) フィールド)
- -password : ログインに対応するパスワード ([ポートフォリオ / 部署と従業員] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [プロファイル] タブページ / [パスワード] (SQL名 : LoginPassword) フィールド)
- -view : 起動時に表示されるビューのSQL名 ([ツール / ビュー] メニューから選択可能なビュー)。
- -config : 起動するモジュール
 - Portfolio : ポートフォリオ
 - Contract : 契約
 - SAM : ソフトウェア資産管理
 - SWD : ソフトウェア配布
 - Finance : ファイナンス
 - Chargeback : 経費付替え
 - Procurement : 調達

- Cable : ケーブル
- Barcode : バーコードによる棚卸
- Admin : 管理
- Reconc : 照合更新

複数のモジュールを起動するには、各モジュールをカンマで区切ります。

例

```
am -cnx:Database -login:util -password:Password -view:PentiumAssets -config:ltam,Pr  
ocurement
```

警告:

- パラメータ値ではスペースは使用できません。
- モジュールをコマンドラインで起動する場合、[ファイル / モジュールの起動] は使用できなくなります。

Webクライアント

- 1 AssetCenter互換性一覧にリストされているインターネットブラウザを起動します。
- 2 社内のAssetCenter管理者から提供されたURLを使って、AssetCenter Web Tierに接続します。

URLの形式は次の通りです。

```
http://<AssetCenter Web Tier server name>:<Port used by AssetCenter Web Tier>/  
AssetCenter
```

データベースへの接続

データベースに接続する方法には、WindowsNTに統合されたセキュリティを使用する方法と、使用しない方法の2つがあります。

注意:

AssetCenterセッションでは一度に1つのデータベースのみを開くことができます。ただし、AssetCenterクライアント (WindowsまたはWeb) の複数インスタンスを起動して、別々のインスタンスによって異なるデータベースに接続することもできます。

Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続する

Windowsクライアント

Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続するには：

- 1 [ファイル/データベースに接続]を選択します。
- 2 [接続]フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 [ログイン]フィールドに、管理者が[従業員]テーブル（SQL名：amEmplDept）で定義した[ログイン]名（SQL名：UserLogin）を入力します。

[ファイル/接続の管理]メニューを使って、希望するデータベースに接続することもできます。接続を選択し[開く]をクリックします。

注意:

管理者として接続する場合は、「Admin」と入力します。

- 4 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
データベースを初めて開く場合は、管理者に割り当てられたパスワードを使用します。データベースが一度開いた後は、[ツール/パスワードの変更]メニューでパスワードを変更できます。
- 5 [開く]をクリックします。

Webクライアント

NTの統合セキュリティを使用せずに接続するには、次の手順に従います。

- 1 管理者が[従業員]テーブル（amEmplDept）で定義した[ユーザ名]（UserLogin）を入力します。
-

注意:

管理者として接続する場合は、[ログイン]フィールドに「Admin」と入力します。

- 2 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
データベースを初めて開く場合は、管理者に割り当てられたパスワードを使用します。データベースを一度開いた後は、ブラウザの[ポートフォリオ管理/処理/パスワードの変更]リンクでパスワードを変更できます。
- 3 [開く]をクリックします。

 **注意:**

接続ページの表示に使用した（AssetCenter Web Tierをポイントする）URLによって、接続先のデータベースが自動的に決まります。

Windowsクライアントと異なり、接続ウィンドウでは接続先のデータベースを選択することも、データベースへの接続を編集することもできません。

統合NTセキュリティを使用して接続する

この接続モードには以下の特徴があります。

- AssetCenter管理者は、最低でも1回AssetCenter Serverを起動している必要があります。
 - Windows 2000、XPまたはServer 2003のクライアントワークステーションで利用できます。
 - Windows 95、98とMEのクライアントワークステーションでは利用できません。
 - Windows接続時のログインと同じログインでAssetCenterデータベースに接続します。
-

 **ヒント:**

この接続モードでは、[ログイン] と [パスワード] フィールドに値を入力する必要はありません。AssetCenterはWindowsのログインとパスワードを使用します。

Windowsクライアント

統合NTセキュリティを使用して接続するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル/データベースに接続] を選択します。
- 2 [接続] フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 [統合NTセキュリティ使用] チェックボックスをオンにします。
- 4 [開く] をクリックします。

データベースとの接続を解除する

Windowsクライアント

[ファイル/データベースの接続解除]メニューを選択すると、開いたデータベースを閉じることができます。

変更を加えた場合、AssetCenterは変更事項を保存するかどうかをユーザに確認します。

AssetCenterのワークスペース

ここでは、AssetCenterのワークスペースについて説明します。ワークスペースに表示され、アプリケーションの他のすべてのウィンドウと枠がこの中に表示されます。

メニュー

メニューバー

Windowsクライアント

AssetCenterのすべてのコマンドには、ワークスペースの上部にあるメニューバーからアクセスできます。

マウスを使用しない場合、[Alt]キーを押すとメニューバーがアクティブになります。

注意:

起動できるメニューは、HPのライセンスに含まれる内容に限られます。

Webクライアント

この機能は使用できません。

ショートカットメニュー

Windowsクライアント

ショートカットメニューは、作業中のプログラム部分に適用されるメニュー項目で構成されます。右ボタンをクリックしてショートカットメニューを表示し、項目を選択します。

マウスを使用しない場合、[Shift] キーと [F10] キーを同時に押すか、[Menu] キーを押すとショートカットメニューを表示できます。

Webクライアント

ショートカットメニューは使用できません。

そのうち一部は、任意のテーブルに有効であるアクション、フィルタ、および統計を含むドロップダウンリストによって置き換えられました。

ツールバー

Windowsクライアント

ツールバーのアイコンをクリックすると、コマンドを選択できます。各アイコンを使用すると、メニューバーを経由せずにAssetCenterの機能を起動できます。

ツールバーの設定を変更するには、[ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニュー項目を使用するか、またはツールバーゾーンのボタンのない部分を右クリックすると表示されるショートカットメニューを使用します。

Webクライアント

ツールバーは、AssetCenterワークスペースの右上にあります。

アイコンの上にマウスカーソルを置くと、ヒントが表示されます。

このツールバーはカスタマイズできません。

ステータスバー

Windowsクライアント

ワークスペースの下部にはステータスバーがあり、以下の情報が左から右に順番に表示されます。

- 選択されているゾーン（アクティブフィールドまたは強調表示されているコマンド）に関する情報
- 開いているデータベースの名前は、データベースへのアクセスに使用したログイン名です。
- 現在の操作モード（参照、作成、変更）
- 時刻

Webクライアント

この機能は使用できません。

WindowsおよびWebクライアントナビゲーションバー

ナビゲーションバーには、機能ドメインに関連付けられた各AssetCenterデータベースコンポーネントが自動的に表示されます。

機能ドメインに従って構成されます。

表示されるコンポーネントは次の通りです。

- アクション
- 書式
- レポート
- ビュー
- テーブルの画面


[機能] タブ/ナビゲーションバーのコンポーネントを追加または削除したり、その位置を変更したりするには、次の手順に従います。

- アクション、フォーム、クエリ、レポート、およびビューの場合
 - 1 Windowsクライアントを起動します。
 - 2 データベースへ接続します。
 - 3 アクション、フォーム、クエリ、レポート、またはビューの詳細を表示します。
 - 4 [ドメイン] (Domain) リンクを変更します。
- テーブルの画面の場合
 - 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
 - 2 データベースへ接続します。
 - 3 画面を含むテーブルを表示します。
 - 4 テーブル画面 ([表示/画面]メニュー) を表示します。
 - 5 [ドメイン] フィールドに機能ドメインのSQL名を入力し、画面と関連付けます。

Windowsクライアント

ナビゲーションバーを表示したり非表示にしたりするには、[ウィンドウ/ナビゲーションバーの表示]メニューを使用します。

Webクライアント

ナビゲーションバーの表示と非表示を切り替えるには、ツールバーのアイコンをクリックします。

Windowsクライアントで使用可能な以下のコンポーネントは、現在のところWebクライアントではサポートされていないため、ナビゲーションバーには表示されません。

- [実行可能ファイル]、[DDE]、[メッセージ]、[印刷]、[ソフトウェア配布]、[アクション]、および[コントロールパネル]タイプのアクション
- 書式

- レポート
- ビュー

お気に入り

Windowsクライアント


ナビゲーションバーは、[ウィンドウ/ナビゲーションバーの表示] メニューによって表示と非表示を切り替えることができます。

[お気に入り] タブでは個人的なお気に入り項目を保存できます。このタブから、頻繁に使用する画面、ビューやその他の項目に直接アクセスできます。お気に入りを作成するには、

- 1 [機能] タブ内でお気に入りとして使用するリンクを選択します。
- 2 右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [お気に入りに追加] を選択します。
- 4 リンクが作成され [お気に入り] タブ内に表示されます。

Webクライアント

Internet Explorerで [お気に入り] を作成するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザの [お気に入り] に追加する画面を表示します。
- 2 Webクライアントのワークスペース右上にある  アイコンをクリックします。
そのページへのリンクが作成され、Internet Explorerの [お気に入り] に追加されます。

表示の優先度

Windowsクライアント

画面の表示は、以下の優先度順位となります。

- 1 クエリウィザード
- 2 ビュー
- 3 カスタマイズした画面
- 4 システム画面

例えば、[ポートフォリオ品目] 画面を表示した場合、クエリウィザードによってフィルタされます。ウィザードでフィルタ条件を指定した場合、表示される画面にクエリが反映されます。変更していないシステム画面を表示するには、フィルタされた画面を閉じて、クエリ条件を指定せずに再び開いてください。

Webクライアント

この機能は使用できません。

ツールのヒント

マウスポインタをツールバーのアイコンなどの特定の領域にしばらく置くと、ツールのヒントが表示されます。

Windowsクライアント

ツールのヒントの表示と非表示を切り替えるには、[編集 / オプション / 表示]メニューを選択します。

例

リストの列幅が狭いため列の値が途中で切れている場合、その値上にカーソルをしばらく置くと、完全なテキストが表示されます。

Webクライアント

ヒントの表示設定に、オプションは使用しません。

システム情報、インストール済みおよび認識されているコンポーネント

Windowsクライアント

[**AssetCenter**のバージョン情報] ボックスには、AssetCenterに関するすべてのシステム情報が含まれます。

[Peregrine AssetCenterのバージョン情報] ダイアログボックスを表示するには、[ヘルプ / **AssetCenter**のバージョン情報] を選択します。

ワークステーションにインターネットブラウザがインストールされている場合は、<http://h20229.www2.hp.com/index.html>をクリックすれば、HP Webサイトにアクセスできます。

[詳細] をクリックすると、コンピュータにインストールされているAssetCenter関連のパッケージとAssetCenterが認識しているパッケージを確認できます。

この画面には次の情報が表示されます。

- インストールされているソフトウェア (バージョン番号、説明、ソフトウェア名など)。[ソフトウェア] の下にまとめられています。
- クライアントのコンピュータ。[システム情報] の下にまとめられています。
- 現在開いているデータベースに関する情報
- AssetCenterと互換性のあるデータベースエンジンに必要なDLLまたは実行可能プログラム
 - DLL (ダイナミックリンクライブラリ) がインストールされている場合は、AssetCenterによって自動的に検出され、2番目の列にそのライブラリへの完全パスが表示されます。画面の3番目の列には、ライブラリの追加情報として、インストールされ、認識されているコンポーネントが表示されません。
 - DLLが検出されなかった場合は、2番目の列に、[ファイルが見つかりません。] というメッセージが表示されます。

- DLLが検出されても、追加情報が検出されなかった場合は、AssetCenterの2番目の列に [情報が見つかりません。] と表示されます。

情報をクリップボードにコピーするには、 [コピー] をクリックします。インストール済みおよび認識されたパッケージの表示ウィンドウを閉じるには、 [OK] をクリックします。

Webクライアント

ワークスペースの一番上にあるバナーをダブルクリックします。
Windowsクライアントで使用可能な情報の一部のみを使用できます。

レコードリスト

リストの機能

AssetCenterのデータベースには大量の情報が含まれています。このデータは、テーブル（資産、契約など）で分類されています。各テーブルには、テーブル内の各項目（資産、モデル、契約など）のレコードが含まれています。

これらのレコードに素早くアクセスできるように、AssetCenterプログラムではテーブルに含まれているレコードをリストとして表示します。特定のレコードに関する情報にアクセスするには、リストでそのレコードを選択します。

リストを使用する

リストは、任意のテーブルのレコードを一覧表示するためのウィンドウです。このリストを使って、レコードを検索または変更したり、1つのレコードに関する詳細情報を表示することができます。

Windowsクライアント


リストウィンドウにアクセスするには、ツールバーでボタンをクリックし、メニューからコマンドを選択するか、表示するテーブルに対応するエントリをナビゲーションバーから選択します。

 **注意:**

管理者は、 [管理 / 画面一覧] メニューを使ってAssetCenterのリストの一覧を表示することもできます。

Webクライアント

リストウィンドウを表示するには、使用するテーブルに対応するナビゲーションバーのエントリを使用します。

この入力タイプは、アイコンから始まります。



リスト内を移動する

Windowsクライアント


レコードリストのナビゲーション方法については、マニュアル▶『Accessibility options』ガイドの「Mouseless navigation」の章にあるRecord list and detail windows / Record listのセクションを参照してください。

リスト内の読み込み用ボタン

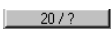
AssetCenterでは、デフォルトでリストに読み込まれるレコードの最大数を指定できます。このためには、[編集 / オプション]メニューの[リスト]項目で[読み込む項目数の限度]に数を入力します。

オプションで指定されたレコードの最大数に応じて、上にあるボタンを使うと前のレコードが表示されます。下にあるボタンを使うと後続のレコードが表示されます。

[次をロード / 上へ]と[次をロード / 下へ]ショートカットメニューを使用しても同じ結果が得られます。

前のレコードまたは後続のレコードをすべて読み込むには、[Shift]キーを押したままボタンをクリックします。





リストの読み込みのインジケータ

ボタンは、データベース内のレコード総数に対して、フィルタをかけた後に読み込んだレコード数を示します。

右側の数字の位置に「？」マークが表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。


Webクライアント

リスト内を移動するには、以下のアイコンを使用します。

アイコン	表示されるレコード
	リストの最初のレコード
	前のレコード
	リストの最後のレコード
	次のレコード

テーブル内のレコード総数を計算するには、レコードリストの右上にある[更新]リンクをクリックします(メインリストのみ)。

レコードリストに関連するアクションボタン

目的	Windowsクライアントで実行するアクション	Webクライアントで実行するアクション
新規レコードを作成する（新規レコードのためのブランクの詳細ウィンドウを表示する）	[新規作成] をクリックします。 レコードは、[作成] ボタンをクリックするまで作成されません。	[新規作成] をクリックします。 レコードは、[保存] ボタンをクリックするまで作成されません。
選択したレコードを複製する（選択したレコードから新しい詳細ウィンドウに情報をコピーする）	[複製] ボタンをクリックします。 レコードは、[作成] ボタンをクリックするまで作成されません。	リストでは使用できません。 レコードの詳細を先に表示します。
選択したレコードを完全に削除する	[削除] ボタンをクリックします。	[削除] コンテキスト依存アクションをトリガします。
レコードの詳細を表示する	レコードをクリックして、[詳細] ボタンをクリックします。	レコードに対応する任意の列のテキストをクリックします。
メインリストで各列の数値の合計を計算する	 アイコンをクリックします。	使用不可能
リストウィンドウを閉じる	[閉じる] をクリックします。	使用不可能

階層構造

AssetCenterのテーブルには、階層構造になっているものがあります。各レコードにはサブレコードを、さらにサブレコードには独自のサブレコードを作成できます。ツリー構造内の階層レベルの数には制限がありません。

例

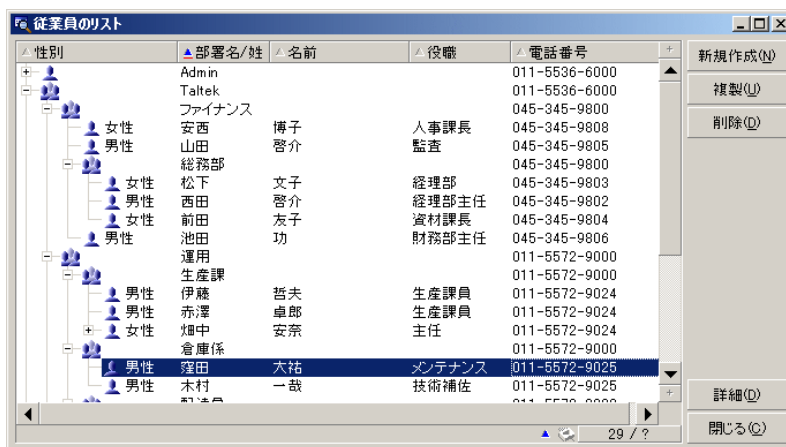
- [場所] テーブルでは、場所Aは、別の場所Bの「従属場所」になっている可能性があります。
- [資産] テーブルでは、ある資産は別の資産の「コンポーネント」になっている可能性があります。
- [部署と従業員] テーブルでは、「アジア地域営業部」には、「マーケティング」という従属部署が存在する可能性があります。この場合、「アジア地域営業部」は、「マーケティング」の「親」または「親部署」です。つまり、下の図に示すような「アジア地域営業部」*「マーケティング」という階層構造になります。

Windowsクライアント

表示モード



階層構造のあるテーブルのレコード（モデル、場所、部署と従業員など）は「リスト形式」と「ツリー構造」のいずれかで表示できます。

図 2.1. [部署と従業員] テーブル-ツリー構造





表示モードは次の方法で選択できます。

- メインリストの場合は、[ウィンドウ/ツリー構造で表示] または [ウィンドウ/リスト形式で表示] メニューを選択します。
- メインリストまたは詳細画面内のリストの場合は、ショートカットメニュー（リスト内でマウスの右ボタンをクリックすると表示されます）から [ツリー構造で表示] および [リスト形式で表示] を選択します。

ツリー構造で表示している場合は、ツリーの  ボタンを使って下のレベルを表示したり、 ボタンを使って下のレベルを非表示にしたりすることができます。

また、マウスの右ボタンでリストをクリックすると、[階層の表示] オプションが表示されます。このオプションでは、表示する階層レベルを「1」、「2」、「3」、または「全レベル」の中から選択できます。リストのウィンドウを閉じるとこの設定内容は失われます。

表示モード用のボタンとショートカットキーは、次の通りです。

- リスト形式で表示 :  [Ctrl+L] キー
- ツリー構造で表示 :  [Ctrl+T] キー

ツリー構造のリストのナビゲーションモードを変更するには、[リスト/ツリー構造のノードを開閉するための矢印キー] オプションを選択します（ [編集/オプション] ）。

その結果、次の動作が得られます。

目的の動作	対応する操作
ツリーノードの階層を表示	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ■ 右矢印 ■ キーパッド上の [+]
ツリーノードを非表示	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ■ 左矢印 ■ キーパッド上の [-]
親を選択	キーボード：左矢印
次の表示レコードを選択	キーボード：下矢印
前の表示レコードを選択	キーボード：上矢印
次の列を選択	キーボード：[Shift+右矢印]
前の列を選択	キーボード：[Shift+下矢印]

重要項目:

テーブルをツリー構造で表示するには、[フルネーム] (SQL名: FullName) フィールドと [階層レベル] (SQL名: sLvl) フィールドの読取り権限が必要です。

テーブルの階層構造を変更する

- 1 階層構造のテーブルを表示します。
- 2 [ウィンドウ/ツリー構造で表示] メニューを使って、リストをツリー構造で表示します。
- 3 リストを読みやすくする場合は、[ウィンドウ/リストのみ] メニューを使って、リストを「リストのみ」モードで表示できます。
- 4 目的のレコードに到達するまで、次のいずれかの方法でツリーを展開します。
 - 階層のノードをクリックします。
 - ポップアップメニューの [階層の表示] コマンドを使います。
- 5 移動するツリーの分岐点にあるレコードをクリックします。
- 6 このレコードを移動先の分岐点にあるレコードにドラッグします。
- 7 レコードのすべてのサブレコードが同時に移され、ツリー構造が保持されません。

または

- 1 テーブルを「リストと詳細」モードで表示します ([ウィンドウ/リストと詳細] メニューから選択します)。
- 2 移動するレコードを同一の親レコードから選択します。
- 3 親レコードを指定するフィールドを変更して、新しい親を選択します。
- 4 [変更] をクリックします。

Webクライアント

この機能は使用できません。

レコードの再編成：仮想階層

階層表示が可能なのは階層構造のテーブルだけです。ただし、レコードをフィールドに基づいてグループ化することが可能です。これにより、仮想階層が作成されます。

注意:

グループ分けは、階層構造のテーブルと階層構造でないテーブルのどちらに対しても使用できます。

この機能は、表示と検索を便利にします。

例えば、[資産] テーブル (amAsset) はフラットモードでしか表示できません。仮想階層を作成すれば、作業指示に入力する際に、資産やその従属資産を選択するのが容易になります。

Windowsクライアント



仮想階層の作成

フィールドまたはリンクによってフィールド内のレコードをグループ分けする機能もあります。その機能によって仮想階層を作成します。

レコードの詳細からグループ分けする

フィールドまたはリンクに基づいてレコードを再編成するには、次の手順に従います。

- 1 目的の画面を開きます。
画面がリストと詳細モードであることを確認します。
- 2 このフィールドまたはリンクを右クリックし、ショートカットメニューから [このフィールドでグループ分け] を選択します。

選択したフィールドに含まれる要素に基づいてリストが再構成され、 ボタンと  ボタンが使用可能になります。階層を定義している要素はグレーで表示されます。

例：

- 1 属性のリストを表示します（ [ポートフォリオ / 属性] ）。
- 2 画面の [全般] タブ内の [作成] フィールドを右クリックします。
- 3 [このフィールドでグループ分け] を選択します。
フラットリストが階層表示になります。

リスト設定からグループ分けする

注意:

この方法は、グループ化に使用するフィールドまたはリンクが詳細画面に表示されない場合に特に便利です。

リストの設定からレコードをグループ分けするには、次の手順に従います。

- 1 目的の画面を開きます。
- 2 リストを右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストの設定] を選択します。
- 3 [グループ] フィールドで、グループ分けの条件となるフィールドまたはリンクを選択します。

例えば、[資産とロット] 画面のモデルに基づいて資産を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [資産とロット] 画面を開きます。
- 2 リストを右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストの設定] を選択します。
- 3 [グループ] フィールドで、モデル ([**amPortfolioItem.Model**]) リンクを選択します。

仮想階層のキャンセル

仮想階層をキャンセルするには、次の手順に従います。

- 1 グループ分けによって変更されたリストを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューから [すべてをグループ解除] を選択します。

階層構造のテーブルのグループ分け

いくつかのテーブル間 (例えば [資産] テーブルと [ポートフォリオ] テーブル間) には特別な関係があり、階層構造のテーブルで他のテーブルの階層を利用できる場合があります。

例えば、[ポートフォリオ] テーブルの階層を [資産とロット] テーブルで利用するには、[**Portfolio.Parent**] リンクでグループ分けします。資産とロットのリストに、各資産の従属資産が表示されます。

注意:

この例の場合は、階層に使用される要素はリストではグレー表示されません。

Webクライアント

この機能は使用できません。

リスト表示のパラメータ

Windowsクライアント

次のように、AssetCenterには、レコードリストの表示方法を設定するパラメータが数多く存在します。

- 表示タイプ：「ツリー構造で表示」または「リスト形式で表示」
- 表示モード：「詳細のみ」、「リストのみ」、または「リストと詳細」
- リストの列見出しボタンを使ったリストの並べ替え
- リストの設定（[ユーティリティ/リストの設定]ショートカットメニュー）：
 - 列で表示するフィールドの選択
 - 並べ替え
 - フィルタ
 - グループ分け
- フィルタの適用
- ウィンドウサイズ

これらの設定は、ウィンドウを閉じるときに保存されます。リストのデフォルトの表示方法に戻すには、[**Shift**] キーを押したままにして、ツールバーのアイコンでテーブルを開きます。

Webクライアント

次のように、AssetCenterには、レコードリストの表示方法を設定するパラメータが数多く存在します。

- リストの並べ替え
- フィルタの適用

シンプルフィルタにのみアクセスできます（フィールドまたはリンクのフィルタ）。

フィルタは、リストの上にある [フィルタ] ドロップダウンリストから選択できます。

このドロップダウンリストには、テーブルインデックスに表示されるすべてのフィールドとリンクが含まれます。

管理者がAssetCenter Database Administratorを使ってテーブルのインデックスにフィールドまたはリンクを追加すると、その新しいフィールドまたはリンクがフィルタリストに表示されます。

ウィンドウのパラメータは、閉じているときは保存されません。

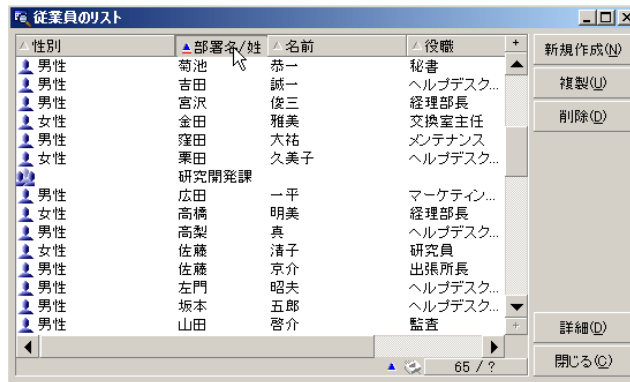
リストのレイアウト

リストを簡単に並べ替える

Windowsクライアント

リストの列見出しにはフィールド名の付いたボタンがあります。このボタンを使うと、対応するテーブルのレコードをこのフィールドの値に基づいてアルファベット順に並べ替えることができます。

図 2.2. 従業員のテーブル-リストの並べ替えツール



▲ をクリックしてその列の項目でリストを昇順で並べ替えます。▲ を2回目にクリックすると降順で並べ替えられます。直接降順で並べ替えるには、[Shift] キーを押しながらこのボタンをクリックします。

並べ替えの昇順と降順を切り替えるには、▲ と ▼ のボタンをクリックします。

▲ の赤い線は、インデックス付きで並べ替えられることを示しています。インデックスが付いている方がより速く並べ替えできます。

Webクライアント

メインリストは並べ替えができますが、セカンダリリスト（タブの下のリスト）はできません。

列を並び替えるために、列に対応するフィールドまたはリンクには、以下の条件が必要です。

- 画面が属するテーブルの一部であること。
- 画面が属するテーブルのインデックスの固有フィールドまたはリンクであること。

特定の列を基準にリストを並べ替えるには、その列の名前をクリックします。

クリックするたびに並び順が変わります。

- 1 並び替えなし
- 2 昇順
- 3 降順
- 4 昇順
- 5 降順

Webクライアントでは、[並び替えなし] ステータスに戻すことはできません。

リストに列を簡単に追加する

Windowsクライアント

詳細画面からリストに列を追加できます。オブジェクト（フィールドまたはリンク）を右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / この列をリストに追加] を選択します。このオブジェクトの値が列に表示されるようになります。

Webクライアント

この機能は使用できません。

ヒント:

リストに表示される列は、AssetCenter Database Administratorによって画面に定義されるフィールドおよびリンクに対応します([リストの列] フィールド)。

リストから列を簡単に削除する

Windowsクライアント

リストから列を簡単に削除することができます。列（フィールドまたはリンク）内の値を右クリックして、ショートカットメニューから [ユーティリティ / この列を削除] を選択します。

Webクライアント

この機能は使用できません。

リストの列の幅を調節する

Windowsクライアント

リストがアクティブな時に [F9] キーを押すと、表示できるサイズに応じて最大列サイズが取得されます。

[Ctrl+F9] キーを押すと、各列のサイズが自動的に調節され、すべての値が完全に表示されます。AssetCenterの列見出しの右上端をダブルクリックすると、その列のみのサイズが調整されます。

Webクライアント

この機能は使用できません。











[ユーティリティ/リストの設定] ショートカットメニューを使う

警告:

この機能はWindowsクライアントでのみ使用できます。

左側の一覧

[列/並べ替え] タブには、メインリストに表示できる現在のテーブルのすべての要素が階層構造で表示されます。様々な項目を識別するために次のアイコンが使われています。

-  フィールドを示します。
-  インデックス付きフィールドを示します。
-  金額値を示します。
-  と  リンクを示します。
-  任意管理項目を示します。
-  特殊フィールドを示します。
-  キーを示します。
-  コメントへのリンクを示します。
-  画像へのリンクを示します。

矢印のボタンを使用する代わりに、左側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が右側の列一覧に追加されます。[OK]をクリックするとメインリストに列が追加されます。右側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が列一覧から削除されます。

リストの上にあるフィールドにSQL名を記入すると、データベースディクショナリ内の要素を入力できます。このボックスに何文字か入力すると、AssetCenterが自動的に残りの文字を入力します。

右側の一覧

リストの並べ替えに使う、または表示する列項目の一覧です。

並べ替え

列見出しをクリックすると、その列に含まれる値の並べ替えが実行されます。1回目のクリックによって上向きの三角形が表示され昇順の並べ替えが実行され、2回目のクリックによって下向きの三角形が表示され降順の並べ替えが実行され、3回目のクリックによって並べ替えがキャンセルされます。

 注意:

実際にリストを並べ替えるには、単純に列見出しをクリックします。[Shift] キーを押したまま列見出しをクリックすると、降順で並べ替えできます。

表示 / 非表示

チェックボックスをオフにすると、リスト内で該当列を非表示にすることができます。

例えば、「資産タグ」で並べ替えを実行するけれども、レコードリストには表示しない、または印刷しない場合は、非表示に設定することができます。

タイトル

この列を使うと、リストのデフォルトの列見出しを希望のタイトルに置き換えることができます。

色

この列では、リスト内でのレコード表示に使用する色を定義する特殊フィールドを選択できます。

テーブル内の特定のフィールド、特殊フィールド、任意管理項目など、複数のタイプのフィールドから選択できます。

色のフォーマットはRGBです。色のRGB値が分からない場合は、AmRgbColor()BASIC関数を使うと、使用する色の正しい値が割り出されます。

例

3ヶ月以内に終了する契約を表示するとします。

この場合は、次のように設定します。

- 1 次のパラメータによって特殊フィールドを作成します（[管理 / 特殊フィールド] メニュー）。

表 2.1. 特殊フィールド - 列の色

フィールド	値
[テーブル] (SQL名 : TableName)	[契約] (SQL名 : amContract)
[フィールドタイプ] (SQL 名 : seType)	[BASICスクリプト]
[結果のデータ型] (SQL 名 : seDataType)	[数値]

フィールド	値
[計算スクリプト] (SQL 名 : memScript)	<pre>If AmDateDiff([dEnd],AmDate()) < 7776000. Then RetVal = AmRgbColor("RED") Else RetVal = AmRgbColor("BLACK") End If</pre>

- 2 [契約 / 契約] メニューを使って、契約のリストを表示します。
- 3 ショートカットメニューの [ユーティリティ / リストの設定] コマンドを使って、リストを設定します。
- 4 表示する列の一覧に、作成した特殊フィールドを追加します。
- 5 [色] 列で、追加したフィールドのチェックボックスをオンにします。
- 6 [OK] をクリックしてこの設定を確認します。
- 7 [終了] フィールド (SQL 名 : dEnd) の値が現在の日付から3ヶ月以内になっている契約と、この値が3ヶ月を越える契約を比較して、この設定をテストします。

データ型

右側の一覧のこの列は、テキスト、数値、日付など、フィールドのデータ型を示します。実際のリストの並べ替えに使われたり、表示されることはありません。

インデックスで並べ替え

[インデックスで並べ替え] フィールドでインデックスを選択すると、上の一覧の [並べ替え] 列のチェックボックスで選択しなくても、一覧に並べ替えキーとして追加されます。

インデックスを並べ替えキーとして選択すると、必要な列が一覧に追加され、一覧で既に選択されている並べ替えキーの選択は解除されます。インデックスによっては、複数の列が一覧に追加される場合があります。

リストをインデックスで並べ替えると、速く処理できます。

一番下のオプション

[インデックスの強制使用] オプション

このオプションは、データベースに送信されるクエリで使用インデックスを指定するために選択します。

これにより、データベースエンジンが正確にインデックスを使用する可能性が高くなりますが、保証はされません。

[Nullを表示] オプション


このオプションを選択して数値以外のフィールドでリストを並べ替える場合に、このフィールドがNullに設定されたレコードが表示されます。

このオプションを選択しない場合、並び替えフィールドがNullに設定されたレコードが表示されません。

ドロップダウンリストのレイアウト

Windowsクライアント


ドロップダウンリストは、次のいずれかの方法で詳細を表示することができます。

- フィールドの右側にあるをクリックする
- [Alt+下矢印]キーを押す

[編集/オプション/ナビゲーション]メニューで表示される[ドロップダウンリスト内でツリー構造]オプションで「はい」を選択すると、ドロップダウンリストはツリー構造で表示されます。

- リストとして表示する場合の並び順は、ドロップダウンリストがアクセスしているテーブルの設定によって決まります。この設定は、AssetCenterDatabase Administratorの[特殊文字列]フィールドで行います。
- ツリー構造で表示されるときに、レコードが[完全名]を基準にしてアルファベット順で並び替えられます。

Webクライアント

フィールド右側にあるをクリックして、詳細ドロップダウンリストを表示します。

統計の表示

AssetCenterでは、リンクまたはフィールドに関する統計をグラフ化して表示することができます。

Windowsクライアント

統計を表示するには、次の手順に従います。

- 1 カーソルをリスト内の列に移動するか詳細画面内のフィールドまたはリンクに移動します。
- 2 右クリックします。
- 3 列をクリックした場合は、ショートカットメニューの[ユーティリティ/この列に関する統計]を選択します。フィールドをクリックした場合は、[このフィールドに関する統計]を選択し、リンクをクリックした場合は、[このリンクに関する統計]を選択します。
- 4 別ウィンドウに、統計が表示されます。
- 5 グラフ内のある項目をダブルクリックすると、新しいウィンドウが開いて該当レコードにフィルタを実行することができます。

注意:

この統計は、AssetCenterにより検出される最初の10件の値のみに限られています。残りの値は [その他の値] に含まれます。

統計グラフの表示

グラフの表示方法を何種類かの中から選択することができます。

グラフの表示方法を変更するには、マウスの右ボタンをクリックして、状況依存メニューから希望するオプションを選択します。

- グラフの種類
 - 縦棒
 - 横棒
 - 折れ線
 - 円
- 表示モード
 - 3D表示
 - 重ねて表示

グラフの凡例や背景を表示することも可能です。

Webクライアント

- 1 リストを表示します。
 - 2 [統計] リストから統計を選択します。
- リストには、以下の項目ごとにエントリが表示されます。
- テーブルインデックス (インデックスが主キー上にある場合を除く)
 - コンテキストがテーブル上にある統計

リスト内でレコードを検索する

Windowsクライアント

探している値を含むフィールドでリストを並べ替えると、次の手順に従って目的の項目を検索できます。

- 1 リスト領域内でマウスの右ボタンをクリックすると、ショートカットメニューが表示されます。
- 2 [ジャンプ] メニューをクリックし、検索する値の最初の数文字を入力します。残りの文字は、AssetCenterがデータベース内から最も近い値を探し出して自動的に入力します。
- 3 正しい値が入力されたら、[ジャンプ] ボタンをクリックします。キーボードで入力した値以上の値を持つリストの対応する項目上に、カーソルが移動します。



注意:

[ジャンプ] コマンドのショートカットキーは [Ctrl+G] です。

その他のレコード検索方法

- フィルタ：定義した検索基準（フィルタ）で検索し、その基準に一致するレコードのリストを表示できます。
- ビュー：フィルタとパラメータを組み合わせて検索し、レコードのリストを表示します。

Webクライアント

リストの上にある [フィルタ] ドロップダウンリストから、フィルタを選択します。

リスト内でレコードを操作する

リスト内のレコードを選択する

Windowsクライアント

リスト内のレコードを選択すると、レコードが強調表示されます。デフォルトでは、最初のレコードが選択されています。矢印キーでカーソルを移動するか、項目そのものをマウスでクリックして、別のレコードを選択できます。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながらマウスをクリックすると、複数の項目を選択できます。

Webクライアント

目的のレコードの左側にあるチェックボックスを選択します。

リスト内のすべてのレコードを選択する

Windowsクライアント

リストが開いたら、[編集 / すべて選択] メニューを使ってリスト内のすべてのレコードを選択します（キーボードショートカット：[Ctrl+A]）。

Webクライアント

列名の左側にあるチェックボックスを選択します。

ツリー構造のリストでレコードを移動する

Windowsクライアント

ツリー構造のリストでは、レコードをマウスでドラッグアンドドロップするだけで、ツリー内の別の位置に簡単に移動できます。項目をクリックしてマウスボタンを押したままカーソルを新しい位置に移動し、マウスボタンを放します。

これは、例えば [従属場所] (SQL名: SubLocations) フィールドや資産の [親資産] (SQL名: Parent) フィールドを変更するのと同じ効果があります。

Webクライアント

この機能は使用できません。

フロアプランにオブジェクトを追加する

Windowsクライアント

フロアプランを定義するときに ([ポートフォリオ / フロアプラン] メニュー)、別のリストのレコード (資産、従業員など) をドラッグ&ドロップして追加することができます。

フロアプランに直接要素をドラッグできます。また、詳細画面に対応するアイコンが表示されている場合は、そのアイコンをドラッグすることもできます。

フロアプランで要素を移動させるには、マウスを使います。

フロアプラン作成に関する詳細は、マニュアル『主要テーブル』の「フロアプラン」の章を参照してください。

Webクライアント

この機能は使用できません。


リストをエクスポートする

Windowsクライアント

エクスポートするリストを選択すると、フィルタで検索した場合はフィルタがかけられてからリストがエクスポートされます。つまり、エクスポートされるのは画面上に表示されているのと同じ列項目です。

最初に、エクスポートしたいメインリストまたは詳細画面のリストを特定し選択します (例えば、資産詳細の [契約] タブに表示されている資産にリンクされている契約のリストをエクスポートしたい場合)。エクスポートに使用されるリストは、操作を開始したときに使用されるリストです。

メインリストまたは詳細画面内のリストを出力するには、ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストのエクスポート] メニューを選択します。

- 1 ダイアログボックスの [ファイル] フィールドに、エクスポートするデータを保存するテキストファイルの名前、拡張子、およびパスを入力します。
 - データをテキストファイルにエクスポートすることを選択した場合、 [ファイル] オプションを選択してから  ボタンをクリックして、エクスポートするテキストファイルのパス名、ファイル名、および拡張子を選択します。
 - データをMicrosoft Excelスプレッドシートにエクスポートすることを選択した場合、 [**Microsoft Excel**] オプションを選択します。エクスポート時には、AssetCenterによって自動的にMicrosoft Excelが開始され、新しいワークシートにエクスポートされたデータが表示されます。

 **重要項目:**

Microsoft Excelはシステムにインストールされていなくてはなりません。AssetCenterでは、データを直接「.xls」ファイル（Microsoft Excelファイル）にエクスポートすることはできません。

- 2 データエクスポートオプションを次のように選択します。
 - テーブルの名前をエクスポートテキストファイルの先頭またはMicrosoft Excelテーブルの最初の行に表示する場合は、 [テーブル名のエクスポート] オプションを選択します。

 **注意:**

エクスポートファイルをMicrosoft Accessで使う場合は、テーブル名をエクスポートしないようにしてください。

- 列の名前をエクスポートテキストファイルの先頭またはMicrosoft Excelテーブルの列のヘッダーに表示する場合は、 [列見出しのエクスポート] オプションを選択します。
 - [ID番号のエクスポート] オプションを選択すると、レコードと共にID番号をエクスポートできます。つまり、テーブルの [ID] フィールドをエクスポートできます（例：資産とロットのテーブルの [**IAstid**] ）。
 - テキストファイルにエクスポートする場合のみ、ドロップダウンリストの [区切り文字] を選択します。この文字によって、エクスポートメインリストの各フィールドが区切られます。
- 3 [エクスポート] をクリックします。



警告:

データをエクスポートするには、すべてのAssetCenterユーザが [リストのエクスポート] ショートカットメニューを使用してアクティブなリストをエクスポートできます。AssetCenterExportでは非常に複雑なエクスポート手順を実行できますが、これを実行できるのはAssetCenterの管理者だけです。詳細に関しては、『AssetCenterの高度な使い方』を参照してください。

Webクライアント

リストの表示内容をクリップボードにコピーできます。

レコードの詳細情報

ここでは、AssetCenterのレコードの詳細画面にアクセスして、レコードの詳細情報を表示する方法について説明します。

レコードの詳細には、このレコードに関連するすべての情報が含まれます。情報はタブで分類され、件名ごとに整理されています。

情報は各タブにフィールド、リンク、またはリスト形式で表示されます。リストには任意の数の項目を追加できます。これは資産項目などの場合に使用します。

レコードの詳細画面にアクセスする

Windowsクライアント

レコードの詳細を表示するには、次の手順に従います。

- 1 目的のレコードが保存されているテーブルのレコードリストを表示します。
- 2 次のいずれかのアクションを実行します。
 - レコードをダブルクリック
 - リストからレコードを選択し、[詳細] ボタンをクリック

Webクライアント

レコードの詳細を表示するには、次の手順に従います。

- 1 目的のレコードが保存されているテーブルのレコードリストを表示します。
- 2 リストにレコードを表示します (例えば、フィルタを使って検索)。
- 3 レコードを示すテキストをクリックします。

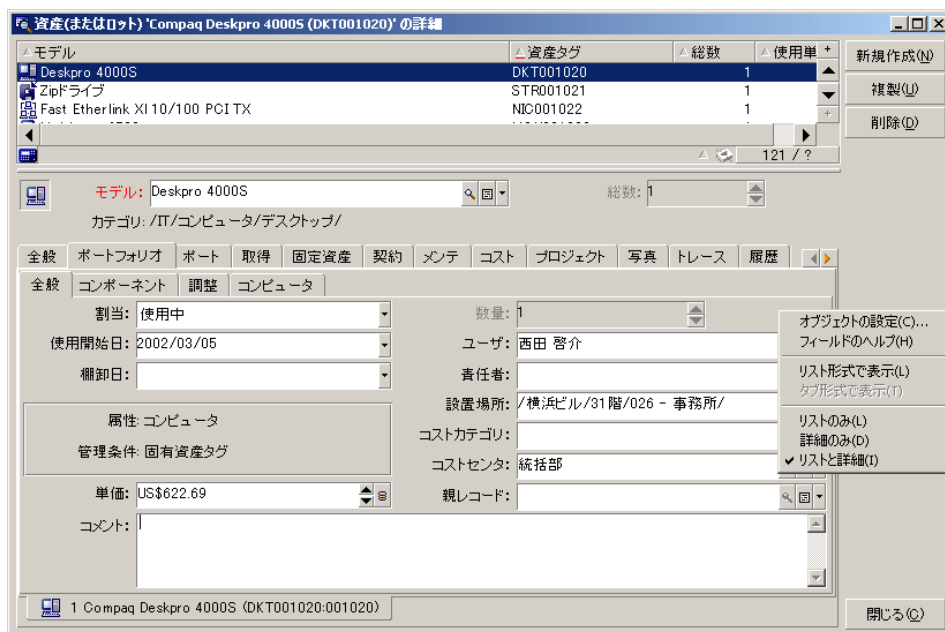
リストと詳細の組合せ表示

Windowsクライアント

AssetCenterでは、選択した分野の情報を、リストのみ、詳細のみの画面で表示したり、リストと詳細の両方を同時に表示したりすることができます。

表示モードを切り替えるには、[ウィンドウ/リストのみ]、[ウィンドウ/詳細のみ]、または [ウィンドウ/リストと詳細] メニューを選択します。

図 2.3. 「リストと詳細」モードでの表示



表示モードには、次のショートカットキーが割り当てられています。

- リストのみ：[F6] キー
- 詳細のみ：[F7] キー
- リストと詳細：[F8] キー

 **注意:**

「リストと詳細」モードでは、リストを横長モード（リストが詳細画面の上に表示されます）または縦長モード（リストが詳細画面の左側に表示されます）のどちらかで表示できます。2つのモードを切り替えるには、リストと詳細部分を除く画面上を右クリックし、[横長ウィンドウに切り替え]または[縦長ウィンドウに切り替え]ショートカットメニューを選択します。あるいは、リストまたは詳細の境界線上をダブルクリックします。

Webクライアント

この機能は使用できません。

ウィンドウのサイズを変更する

Windowsクライアント

AssetCenterでは、ウィンドウのサイズを変更できます。

マウスを、ウィンドウの境界または角に置きます。ポインタの形状が変化したら、ウィンドウの境界または角をクリックしてドラッグし、ウィンドウのサイズを変更します。

リストと詳細領域のサイズを変更するには、

- 1 ポインタを、リスト領域と詳細領域を分離する境界線上に置きます（ポインタの形状が変化します）。
- 2 マウスをクリックし、マウスボタンを押しながら、境界線を希望の位置までドラッグします。
- 3 マウスボタンを放します。






マウスを使用せずにメニューのサイズを変更するには、ウィンドウ内でコンポーネントを選択した後に、[Alt]キーを押してから左矢印キーと下矢印キーを続けて押します。











Webクライアント

この機能は使用できません。

詳細画面の主要ボタン

目的	Windowsクライアントで実行するアクション	Webクライアントで実行するアクション
詳細ウィンドウで加えた変更を保存する	[変更]	[保存]

目的	Windowsクライアントで実行するアクション	Webクライアントで実行するアクション
詳細ウィンドウの情報を新規レコードとして保存する	[作成]	[保存]
詳細ウィンドウの情報を新規レコードとして保存し、現在の情報に基づいて新規レコードを作成する このアクションは、類似情報を持つ複数のレコードセットを作成する場合に役立つ	 新規レコードは、  をクリックするか、 [作成] ボタンをクリックして、作成プロセスを完了しないと作成されません。	使用不可能
レコードを複製する	[複製]	[複製]
レコードの作成中にこのボタンをクリックすると、そのレコードの作成が取り消されます。	[キャンセル]	[キャンセル]
レコードの変更中にこのボタンをクリックすると、加えた変更が取り消され、元の値に戻ります。	[キャンセル]	[キャンセル]
レコードを削除する	使用不可能	[削除]
リンクしているレコードの詳細を表示する		リンクしている項目の説明をクリックします。
選択ウィンドウからレコードを選択して、リンクを入力する	 このボタンは、 [選択ウィンドウ] ナビゲーションオプションによって表示されます。これは、 [編集 / オプション] メニューからアクセスできます (ツリービューの [ナビゲーション]、 [リンクしているレコードの選択] を順に展開)。表示されるリストは、リンクしているレコードの標準リストです。表示されるリストのタイトルは、表示先のコンテキストによって異なります。例えば、資産「bbb」のユーザを選択すると、部署と従業員リストが表示されますが、そのウィンドウのタイトルは [従業員リスト] ではなく [ポートフォリオ品目「bbb」のユーザ] (このコンテキストではより正確なタイトル) となります。	

目的	Windowsクライアントで実行するアクション	Webクライアントで実行するアクション
ドロップダウンリストからレコードを選択して、リンクを入力する	 リンクしているレコードを選択することはできますが、単一列のドロップダウンリストが開き、同じタイプの値が示されず、この動作は、標準のメインリストが表示される  ボタンとは異なります。	使用不可能
リストデータから値を選択してフィールドに入力します。		
リンクしているレコードを解除する	リンク編集ゾーンの内容を削除する	
左側のタブリストを表示する		使用不可能
右側のタブリストを表示する		使用不可能
詳細リストにレコードを追加する。 例：資産に割り当てられた契約のリスト このリストは、資産の詳細の [契約] タブにあります。		[追加]
詳細リストからレコードを削除する		[削除]
ボタンの左側にあるフィールドにアラームを追加する		使用不可能

タブページ

AssetCenterでは、データベースレコードの情報が「詳細画面」に表示されます。一部のタブにリンクレコードのリストが表示されます。例えば、契約の詳細内にある [資産] タブに、契約の対象となる資産が含まれています（ [契約上の資産] リンク(AstCntrDescs)）。

Windowsクライアント

タブ内のレコードは複数の形式で表示できます。

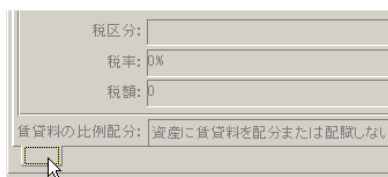
- タブ形式
- リスト形式

タブ形式を変更するには：

目的の動作（状況）	対応する操作
タブ形式でリストを表示（マウス使用時には推奨しません） （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[タブ形式で表示]
テーブル形式でリストを表示（マウス使用時に推奨） （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リスト形式で表示]

テーブル形式で表示されるタブ内のレコードを操作するには、リストの右側にあるボタン、ショートカットメニュー、または一般メニューを使用します。

タブ形式で表示されるタブ内のレコードを操作するには、最初にタブのIDを選択し、ショートカットメニューまたは一般的なメニューを使用します。



次の操作を実行することができます。

目的の動作（状況）	対応する操作	リスト形式で使用可能	タブ形式で使用可能
リンクを追加 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクを追加]		
リンクを複製 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクレコードの複製]	-	
リンクを削除 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクの削除]		
リンクの詳細を表示 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクの詳細表示]		-
リンクをコピー （リストゾーン）	[Ctrl+C] キー [編集/コピー]メニュー		-
リンクを切り取り （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+X] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集/切り取り]メニュー 2 [変更] ボタン		-

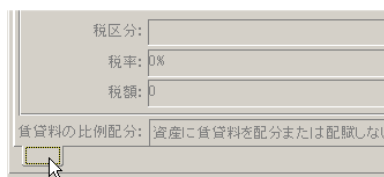
目的の動作（状況）	対応する操作	リスト形式で使用可能	タブ形式で使用可能
リンクを貼り付け （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+V] キー 2 [変更] ボタン		-
	一般メニュー： 1 [編集 / 貼り付け] メニュー 2 [変更] ボタン		-
リンクを削除 （リストゾーン）	キーボード： 1 [Delete] キー 2 [変更] ボタン		-
	一般メニュー： 1 [編集 / 削除] メニュー 2 [変更] ボタン		-

リンクされたレコードを説明するタブの名前は、タブ内のいずれかのフィールドに定義されています。

以下の複数リンクがいずれも作成されていない場合、タブは灰色になります。

1番目のリンクを追加すると、自動的にタブが有効になります。このリンクを追加するには、

- 1 未使用のタブを選択します。



- 2 右クリックします。
- 3 [リンクの追加] をショートカットメニューから選択します。
- 4 リンクに値を入力します。
- 5 [変更] をクリックします。

Webクライアント

タブ内のレコードはリスト形式で表示されます。

タブリストのレコードに対してアクションを実行するには、リスト内で直接 [追加] と [削除] ボタンを使用します（メインレコードに対してアクションを実行するボタンと混同しないでください）。

レコード詳細内を移動する

レコード詳細のナビゲーション方法については、マニュアル▶『Accessibility options』の「Mouseless navigation」章にあるRecord list and detail windows / Record detailのセクションを参照してください。

レコードの処理

ここでは、AssetCenterでレコードを作成および変更する方法について説明します。

全般オプション

Windowsクライアント

遅延時間を定義すると、その時間が経過した後に現在の操作をキャンセルできるウィンドウが表示されます。この遅延時間はミリ秒で表され、アプリケーションオプション（[編集 / オプション]メニュー）の[編集]セクションの[待機メッセージを表示するまでの時間]オプションで定義します。

Webクライアント

全般オプションは存在しません。

新規レコードを作成する

Windowsクライアント

新規レコードを作成するには、まず対象となるテーブルを表示します（「部署と従業員」テーブルの場合は、[ポートフォリオ / 部署と従業員]メニューからアクセス）。

AssetCenterでは、[新規作成]ボタンをクリックすると、レコードを作成できます（キーボードショートカット：[**Insert**]キー）。

注意:

新しいレコードを作成するために[新規作成]をクリックすると、デフォルト値が既に定義されているフィールドまたはリンクを除いて、空白の詳細が表示されます。

作成するレコードの情報を、次の方法で入力します。

- 最初の数文字を入力すると、データベースにこれらの文字で始まるレコードが存在する場合は、残りの文字が自動的に入力されます。入力する値がリス

トにない場合は、リンク先のテーブルに新しいレコードを作成するためのオプションが表示されます。

- 仮作成：リンク先のテーブルに新規レコードが作成されますが、詳細は表示されません。後で残りの情報を入力できます。
このオプションは、[オプション / 仮作成の許可] メニューによって無効にすることも可能です。
- 詳細設定：作成する新規レコードの詳細画面が表示されます。その場で新規レコードに関する情報を入力できます。
- レコードを新規作成するときは、デフォルト値があればデフォルト値がフィールドまたはリンクに自動的に入力されます。デフォルト値が作成中レコードの詳細内にある他のフィールド（資産のモデルなど）を参照している場合は、参照先フィールドが入力されるまで、デフォルト値の該当部分が表示されません。これらのフィールドを定義する計算式は、レコードを新規作成するときのみ適用され、レコードの変更時には適用されません。

 **注意:**

AssetCenterウィンドウには複数のフィールドが表示されます。赤色の必須フィールドだけは必ず入力し、他のフィールドは必要に応じて入力してください。管理者は、[オブジェクトの設定] ショートカットメニューまたはAssetCenterDatabase Administrator使って簡単に必須フィールドを定義できます。

図 2.4. レコードを作成する



レコードの作成

Webクライアント

新規レコードを作成するには：

- 1 目的のテーブルのレコードリストを表示します。
例：ナビゲーションバーの [組織 / 従業員] リンクをクリックします。
- 2 [新規作成] をクリックします。

注意:

新しいレコードを作成するために [新規作成] をクリックすると、デフォルト値が既に定義されているフィールドまたはリンクを除いて、空白の詳細が表示されます。

- 3 レコードの詳細を入力します。
- 4 [保存] ボタンをクリックします。

 注意:

レコードを新規作成するときは、デフォルト値があればデフォルト値がフィールドまたはリンクに自動的に入力されます。デフォルト値が作成中レコードの詳細内にある他のフィールド（資産のモデルなど）を参照している場合は、参照先フィールドが入力されるまで、デフォルト値の該当部分が表示されません。これらのフィールドを定義する計算式は、レコードを新規作成するときのみ適用され、レコードの変更時には適用されません。

 注意:

レコードの詳細にはフィールドとリンクが含まれます。

必ず入力しなければならないのは必須フィールドとリンク（赤字）だけです。その他のフィールドはオプションです。

管理者は、Windowsクライアント（[オブジェクトの設定] ショートカットメニュー）またはAssetCenter Database Administratorを使って必須フィールドを定義する必要があります。

レコードを変更する



データベースレコードに関する情報は、詳細を使って変更することができます。


 注意:

レコードの詳細画面に表示される情報の多くは、他のテーブルからの情報です。他のテーブルと関連付けるため、プログラムは異なるテーブルのレコード同士をリンクします。あるレコードの情報を変更すると、そのレコードにリンクされているすべてのレコードも変更されます。この原理で動作するデータベースを「リレーショナルデータベース」と呼びます。この方法を使うと、データベース内の重複情報を最小限に抑えることができるため、情報の変更に要する時間が短縮され、ディスク容量も節約できます。

Windowsクライアント

（リストで直接レコードを変更することはできません。）詳細には次の2種類の情報が含まれます。


- 直接情報。フィールドに入力するだけで変更できます。
- リンク情報。変更方法は以下の通りです。
 - フィールドの右側にある  アイコン（ドロップダウンリスト）または  アイコン（選択ウィンドウ）をクリックし、表示されるリストから別の値を選択する。
フィールドに別の値を入力する。

- フィールドの右側にある  ボタンを使ってリンク項目の詳細画面を表示し、情報を変更する（例：サプライヤの電話番号などを変更する）。

フィールドの値を変更すると、新しい値が別の色で表示され、新しい値を確定する [変更] ボタンとこれらの変更を取り消すための [キャンセル] ボタンが表示されます。

Webクライアント

（リストで直接レコードを変更することはできません。）詳細には次の2種類の情報が含まれます。

- 直接情報。フィールドに入力するだけで変更できます。
- リンク情報。変更方法は以下の通りです。
 - リンクの右側にある  アイコンを使って、別のテーブルからレコードを選択します。
 - 説明をクリックして、リンクされている項目の詳細を表示します。これはリンクされている項目の情報を変更する場合に使用します（サプライヤの電話番号を変更する場合など）。

新しい値を確定する場合は [保存] ボタンを使用し、変更を取り消す場合は [キャンセル] ボタンを使用します。

複数のレコードを変更する

Windowsクライアント

選択している複数のレコードの情報を同時に変更することもできます。選択しているすべてのレコードに対して同じ値のみを変更できます。

リストを「リストと詳細」モードで表示し、リストから変更するレコードを複数同時に選択します。

詳細画面には次のフィールドが表示されます。

- 同じ値を含むフィールド：白い背景
- 異なる値を含むフィールド：灰色の背景

白い背景のフィールドの値を変更することができます。

注意:

もう1つの方法は複雑ですがとても便利です。レコードをエクスポートして AssetCenter外で変更してから、そのデータをインポートし直します。詳細は「レコードリスト [献 31]」節の「リストをエクスポートする [献 47]」を参照してください。


Webクライアント

この機能は使用できません。

複数のユーザがレコードを変更する

AssetCenterでは、複数のユーザがデータベースに同時にアクセスできるため、2人のユーザが同じレコードを同時に編集、変更した場合に、レコードがどのように処理されるかを理解することが重要です。

AssetCenterの1人のユーザがデータベースを使っている間に、他のユーザが詳細情報を変更したり、新規レコードの追加やレコードの削除を行うことがあります。画面を再表示すると変更事項が表示されます。

しかし、リストまたは詳細ウィンドウを表示した後に他のユーザが変更事項を加えた場合は、[F5] (Windowsクライアント) キーを押すか、[ウィンドウ/更新] メニュー項目を選択するか (Windowsクライアント)、 アイコンを選択 (Webクライアント) しないと更新されません。

フィルタを適用したり、リストの並べ替えや、ツリー表示とリスト表示の切り替えを行うと、リストは自動的に更新されます。また別のレコードの詳細画面を表示する場合も情報が更新されます。

AssetCenterでは次のような規則が適用されます。

- 複数のユーザは同じレコードを通常どおり編集でき、エラーメッセージも表示されません。
- ユーザが [変更] ボタン (Windowsクライアント) または [保存] ボタン (Webクライアント) をクリックすると、各フィールドが個別に調べられ、画面上の値とデータベースに格納されている値が比較されます。
 - データベースの値と画面上の値が同じ場合は、そのままです。
 - データベースの値と画面上の値が異なる場合は、画面上の値がデータベースに保存されます。
- 2人のユーザが同じレコードの同じフィールドを変更した場合は、最後に変更を確定したユーザに警告メッセージが表示されます。
 - Windowsクライアント：[変更] を最後にクリックしたユーザによる変更事項がデータベースに保存されます。
- [変更] をクリックすると、プログラムは次のように変更を処理します。ただちにレコードがロックされ、プログラムが情報をデータベースに書き込む時間が確保されます。レコードのロック中は、他のユーザはレコードを編集できませんが、レコードを読み取ることはできます。
- ユーザがレコードを編集し、その間にレコードが別のユーザによって削除された場合は、レコードを編集中のユーザが [変更] ボタンをクリックしたときに、エラーメッセージが表示されます。
- レコードカウンタの数字は、ユーザが [新規作成] または [複製] ボタンを押すたびに増加します。作成を確定せずに取り消し、他のユーザも [新規作成] ボタンを使わなかった場合は、カウンタは元の値に戻ります。ユーザの後に別のユーザが [新規作成] ボタンを押した場合は、最初のユーザがレコードの作成を取り消されても、カウンタは減少しません (実際のレコード数と一致しくなくなります)。

Windowsクライアント

特定のテーブルの場合は、特別な方法で更新を行います。

データベースに次回接続する時、または [ツール/キャッシュの更新] メニュー ([Ctrl+F5] キー) を選択する時に更新されるキャッシュをオプションで定義できます。これらのキャッシュは接続の編集用画面で表示される接続キャッシュとは異なります。

Webクライアント

特定のオプションはありません。



レコードを複製する

Windowsクライアント

レコードを複製するには、次の2通りの方法があります。

[複製] ボタンを使用する

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- 1 リストからレコードを選択します。
- 2 [複製] ボタンをクリックします。新規レコードが作成され、元のレコードから情報の一部がコピーされます。
- 3 複製したレコードの詳細を編集して内容を確認してから、[作成] または  ボタンを使って作成を確定します。  ボタンをクリックすることは、[作成] ボタンの後で [複製] ボタンを続けてクリックするのと同じ操作です。

[編集/複製] メニューを使う

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- 1 リストからレコードを選択します。
- 2 [編集/複製] メニューを選択します。
- 3 表示されるダイアログボックスで、コピー数を設定します。
- 4 [複製] ボタンをクリックして、複製を開始します。

[複製] ボタンをクリックした後で [作成] ボタンをクリックして、1つずつレコードを複製するのと同じ操作を、[編集/複製] メニューではまとめて1回で実行できます。

重要項目:

[編集 / 複製] メニューを使用する前に、必須フィールドにデフォルト値を指定し、「複製不可能」なインデックス用の固有のデフォルト値を作成する必要があります。AssetCenterによって、「固有でなければならない値を含むレコードは複製不可能」であることを知らせるメッセージが表示されます。カウンタとして使用する場合は、フィールドにデフォルト値を再適用してください。

AssetCenter Database Administratorの [スクリプト] タブページ内には、[複製時にデフォルト値を再適用] チェックボックスがあります。ここで、複製時にAssetCenterがレコードを処理する方法を指定できます。

- チェックボックスがオフの場合：ソース値がコピーされます。
- チェックボックスがオンの場合：デフォルト領域にデフォルト値 (RetVal="デフォルト値") が適用されます。

Webクライアント

既存のレコードを複製するには、次の手順に従います。

- 1 目的のテーブルのレコードリストを表示します。
例：ナビゲーションバーの [組織 / 従業員] リンクをクリックします。
- 2 複製するレコードの詳細を表示します。
- 3 [複製] ボタンをクリックします。
- 4 レコードの詳細を入力します。
- 5 [保存] ボタンをクリックします。

レコードを削除する

警告:

一旦削除したレコードを元に戻すことはできないため、削除する前にその影響をよく考慮する必要があります。データベース内に間違って作成したレコードか、ポートフォリオから消えた項目かなどを確認してください。削除するよりも、項目のステータスを変更したり、データベース内の別の場所に移動したりする方が良い場合もあります。

Windowsクライアント

削除するレコードを選択したら、[削除] ボタンをクリックして、リストからレコードを削除します(ショートカットキー：[**Delete**] キー)。これらのレコードが別のリストのレコードにリンクされている場合、エラーメッセージが表示されます。リンクされていない場合、レコードは削除されます。



注意:

[拡張削除の許可] オプションをオンにすると ([編集 / オプション] メニュー)、リンクしているレコードを削除できます。

Webクライアント

レコードを削除するには、次のいずれかの手順を使用します。

- 1 削除するレコードリストを表示します。
- 2 削除するレコードを選択します。
複数のページから選択することもできます。
- 3 [削除] 状況依存アクションを選択します。
- 4 削除を確定します ([はい] ボタン)。
- 1 削除するレコードリストを表示します。
- 2 削除するレコードの詳細を表示します。
- 3 [削除] ボタンをクリックします。
- 4 削除を確定します ([はい] ボタン)。

削除するレコードが別のリストのレコードに一切リンクされていなければ削除できます。削除できないレコードにリンクされている場合は、エラーメッセージが表示されます。

データの編集

フィールドにデフォルト値を入力する

Windowsクライアント

AssetCenterでは、レコードの作成時に特定のフィールドにデフォルト値を割り当てることができます。

どのフィールドに自動データ入力機能を適用するかは、AssetCenterの管理者が次のいずれかの方法で定義します。

- AssetCenter Database Administratorを使用する。
- または設定するフィールドに移動し、ショートカットメニューの [オブジェクトの設定] メニューを使用します (ショートカットキー: [**Alt**] + [**Enter**])。変更内容がデータベースに保存されるのは次の場合です。
 - データベースとの接続を解除し、表示されるメッセージで設定を確認した場合。
 - [ツール / 管理 / データベース設定の保存] メニューを選択した場合。

デフォルト値は、フィールド、変数、定数などを使う計算式から構成されることもあります。

 **注意:**

デフォルト値の詳細については、『カスタマイズ』ガイドの「フィールド、リンク、インデックスのカスタマイズ」を参照してください。

特殊フィールドの場合

[特殊文字列]および[BASICスクリプト]タイプの特殊フィールドは、標準フィールドのデフォルト値の計算にのみ使用できます。

[コメント]テーブルへのリンクの場合

[コメント]テーブル (SQL名: amComment) へのリンクにはデフォルト値を割り当てられません。

リンクしているレコードの場合

テーブルに新規レコードを作成する時、リンクしているテーブル内のレコードを選択して、新規レコードの特定のフィールドに値を入力しなければならない場合があります。

 **重要項目:**

新規レコードを作成した後にリンクしているレコードのフィールドの値を変更しても、新規レコードのフィールドの値は変更されません。

[作成] ボタンをクリックした後で、新規レコードの詳細画面内にあるリンクしているレコードを選択しても、フィールドのデフォルト値は再計算されません。

管理者は、リンクしているレコードの情報を使って計算したデフォルト値を、テーブル内のフィールドに直接割り当てることができます。

これらのデフォルト値は、計算式に使うリンクしているフィールドに値を入力した時点で自動的に計算されます。

 **注意:**

AssetCenter Serverによって多くのタスクが自動的に実行されます。これらの自動機能の優先順位が、フィールドのデフォルト値より高い場合があります。

Webクライアント

Webクライアント経由でデフォルト値を定義することはできません。

ただし、WindowsクライアントまたはAssetCenter Database Administratorで定義したデフォルト値をWebクライアントに適用することは可能です。

切り取り

Windowsクライアント

テキストを切り取る

テキストを切り取り、クリップボードに格納するには、切り取るテキストを選択し、[編集/切り取り]コマンドを使います。

注意:

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+X]キーです。

詳細画面内のリストからレコードを切り取る

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使うことができます(例: 契約内の資産のリスト、特定の場所にある資産のリストなど)。

詳細画面のリストからレコードを切り取って、クリップボードに格納するには、次の手順に従います。

- 1 切り取るレコードを選択します。
 - 2 [編集/切り取り]コマンドを使います。
 - 3 [変更]をクリックして、変更を保存します。
-

警告:

場合によっては、ターゲットレコードへのリンクだけが削除され、リンク先のレコードはそのまま残ることがあります(例: 資産の詳細画面の[契約]タブページに表示される契約)。レコードそのものが削除されることもあります(例: 資産の詳細画面の[コスト]タブページの経費明細)。

[編集/貼り付け]コマンドを使うと、クリップボード内のレコードを元に戻すことができます。

注意:

メインリスト内のレコードおよび画像に[編集/切り取り]コマンドを使うことはできません。

Webクライアント

OSまたはブラウザの[切り取り]コマンドを使用します。

コピー

Windowsクライアント

テキストをコピーする

クリップボードにテキストをコピーするには、テキストを選択してから、[編集 / コピー] コマンドを使います。

 **注意:**

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+C] キーです。

リストからレコードをコピーする

メインリストまたはタブページのリストからレコードをコピーするには、レコードを選択してから [編集 / コピー] コマンドを使います。

コピー時は、列の順序が維持されます。

 **注意:**

画像に [編集 / コピー] コマンドを使うことはできません。

Webクライアント

OSまたはブラウザの [コピー] コマンドを使用します。

貼り付け

Windowsクライアント

 **注意:**

メインリスト内のレコードおよび画像に [編集 / 貼り付け] コマンドを使うことはできません。

テキストを貼り付ける

クリップボードからテキストを貼り付けるには、[編集 / 貼り付け] コマンドを使います。テキストは、カーソルのある場所に貼り付けられます。

 **注意:**

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+V] キーです。

詳細画面内のリストにレコードを貼り付ける

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使用できます（例：特定の場所にある資産のリストなど）。

クリップボード内のデータをタブページ内のリストに貼り付けるには、[編集/貼り付け]コマンドを選択してから、[変更]をクリックして変更を確定します。

詳細画面内のリストに貼り付ける前の注意事項

- ユーザは、コピーまたは切り取ったレコードのフィールドを、詳細画面のリストの列順に合わせて並べ替えることができません。そのため、貼り付け先のリストの列構造に対応するように貼り付けるデータを調整しておくことが重要になります。例えば、カーソルを詳細画面のリストの1列目に置いてデータを貼り付けると、1列目のデータは詳細画面のリストの1列目に、2列目のデータは、詳細画面のリストの2列目にというように、カーソルの位置を起点にして順番に貼り付けられます。
- 詳細画面のリストの列のうち、データの貼り付け先となる最初の列にカーソルを置き、貼り付ける列数と、貼り付け先の列数（貼り付け開始列から右方向に数えた列数）が同じであることを確認してください。
- 詳細画面のリスト内のレコードを選択したままレコードを貼り付けると、選択しているレコードが貼り付けたレコードに置き換えられます。置き換えない場合は、貼り付ける前に、リスト内のデフォルトで選択されているレコードなどの選択を必ず解除してください（選択を解除するには、[Ctrl]キーを押しながらレコードをクリックします）。
- メインリストのテーブルと詳細画面リストのテーブルの各フィールドが直接リンクされている場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることができます。反対に、両方のテーブルのフィールドが直接リンクされていない場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることはできません。例えば、資産とドキュメントのテーブルはリンクしているので、資産の[ドキュメント]タブにデータを貼り付けることができます。しかし、契約の[資産]タブにデータを貼り付けることはできません。これは、契約のテーブルと資産のテーブルの間に中間テーブル[契約上の資産]があるためです。

Webクライアント

OSまたはブラウザの[貼り付け]コマンドを使用します。

テキストを削除する

Windowsクライアント

削除したテキストをクリップボードに格納する必要がない場合は、テキストを選択してから、[編集/切り取り]コマンドを使います（ショートカットキー：[Del]キー）。



注意:

リスト内のレコードおよび画像に [編集 / 貼り付け] コマンドを使うことはできません。

Webクライアント

OSまたはブラウザの [削除] コマンドを使用します。

日付のデータ入力規則

Windowsクライアント

- Windowsのコントロールパネルを使って、日、月、および年の入力および表示順形式を定義します。日付を入力するときは、定義した順番に従います。
- 年、月、日は毎回全て入力する必要があります。
- 日、月、および年を区切るには、スラッシュ (/)、カンマ (,)、セミコロン (;)、コロン (:)、またはスペースを区切り文字として使います。
- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます (例: 1996または96)。00から49の数値は2000年から2049年になります。50から99の数値は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl+;] キーを押します。

時刻のデータ入力規則

Windowsクライアント

時、分、および秒を使うことができます。

単位はコロン (:) で区切ります。以下に例を示します。

10:08:54

「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則

Windowsクライアント

これらのフィールドは、[日付] フィールドと別に処理されます。

[日付+時刻] フィールドの入力形式は次のとおりです。

Date[<Separator>[Hour]]

使用可能な区切り文字はピリオド (.)、スラッシュ (/)、セミコロン (;)、カンマ (,)、コロン (:)、ハイフン (-) のいずれかです。

Dateは日付を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

```
xx<Separator>yy<Separator>zz
```

xx、yy、およびzzは、整数を表す文字列です。

Timeは時刻を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

```
hour[<Separator>[minute[<Separator>[second[<Separator>[millisecond[<Separator>]]]]]]]
```

hour、minute、second、millisecondは、整数を表す文字列です。

次の規則が適用されます。

- 月、日、および年の入力順序は、Windowsのコントロールパネルを使って定義します。日付を入力するときは、この順序に従います。
- 日、月、および年を系統的に入力します。
- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます（例：1996または96）。00から49の数値は2000年から2049年になります。50から99の数値は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl+.]キーを押す。

画像

Windowsクライアント

AssetCenterでは、次の3種類の形式の画像をレコードに添付できます。

- 16色または256色のビットマップファイル（ファイル拡張子は「.bmp」）。素早く表示できるのが特長です。
- Windowsメタファイル（ファイル拡張子は「.mtf」）。ベクトル形式の画像で、表示に多少時間がかかりますが、サイズを変更しても画質が劣化しないのが特長です。
- アイコン（ファイル拡張子は「.ico」）。

推奨する画像の詳細

- [写真]タブでは、3種類のどの形式の画像でも使用できます。
- レコードの種類を示すための小さな画像（レコードの詳細画面の左上にある小さな四角い画像）の最大サイズは、16×16ピクセルまでです。これらの画像には、「.bmp」形式の画像を使うようにしてください。
- ディスク容量を節約するため、16色の画像を使うようにしてください。

レコードに画像を関連付ける

レコードにリンクされた画像は、レコード詳細画面の左上隅に表示されます。画像を添付するには、次の操作を行います。

- 画像を挿入する領域をダブルクリックします。画像ファイルを選択したり新規作成したりできるウィンドウが表示されます。
- 画像の挿入領域を右クリックし、ショートカットメニューから [画像の選択] または [新規画像の選択] を選択します。画像ファイルの選択を要求する画面が表示されます。

画像を外すには、画像を右クリックしてショートカットメニューを表示し、[画像の削除] を選択します。

画像を保存する

画像はAssetCenterデータベースの [画像] テーブル (SQL名: amlImage) に保存されます。

画像は添付した時点でAssetCenter専用の形式に変換され、バイナリオブジェクトの形に圧縮されます。

注意:

注：後で画像を編集する予定がない限り、添付する前の元の画像ファイルをディスクに保存しておく必要はありません。

Webクライアント

この機能は使用できません。

3 テーブル内で項目を検索する

本章では、AssetCenterでレコードをフィルタを用いて検索する方法について説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- クエリウィザードの使用
- 使用可能なフィルタの種類
- 一般的なフィルタの使用方法
- 検索を絞り込むために複数のフィルタを使用する

クエリウィザード (QBE)

Windowsクライアント

メニューから画面を表示する前に、ウィザードで作成した予備クエリを使って、テーブルデータに事前フィルタをかけることができます。

このウィザードは以下の働きをします。

- テーブルで使用されるフィールドが開かれ、ユーザがこれらのフィールドに値を入力できるようになります。
- ユーザが入力した値をフィルタ条件としてクエリを迅速に実行し、該当データを表示します。

どの画面でクエリウィザードを使用するかは、AssetCenterデータベース管理者が定義します。

クエリウィザードを使ったデータの事前フィルタ

クエリを実行すると、ウィザードで指定された条件に基づいてテーブルにフィルタがかけられます。

フィルタをかけずにすべてのデータを表示するには、次の手順に従います。

- クエリウィザードが表示されたら、次の手順に従います。
 - [キャンセル]をクリックします。
または
 - フィールドに何も指定せずに [OK] をクリックします。

クエリウィザードを無効にする

クエリウィザードを無効にするには、次の手順に従います。

- [クエリウィザードを有効にする] オプション ([編集 / オプション / ナビゲーション] メニュー) の値を変更します。

重要項目:

このオプションを使用すると、すべてのテーブルのクエリウィザードが有効または無効になります。

Webクライアント

リストが属する画面上で、AssetCenter Database Administratorによって定義されたクエリウィザードを使用してリストからレコードをフィルタするには、レコードリストの上にあるドロップダウンリストから [QBE] フィルタを選択します。

検索用フィルタの概要

レコードのリスト (従業員など) を表示するときは、リスト内のすべてのレコードまたは選択したレコードだけを表示することができます。レコードを選択するには、フィルタを使います。

Windowsクライアント

ツリー構造またはリスト形式のいずれの場合でも、同時に複数のフィルタを使用することができます。

使用可能なフィルタの種類

フィルタには次の種類があります。




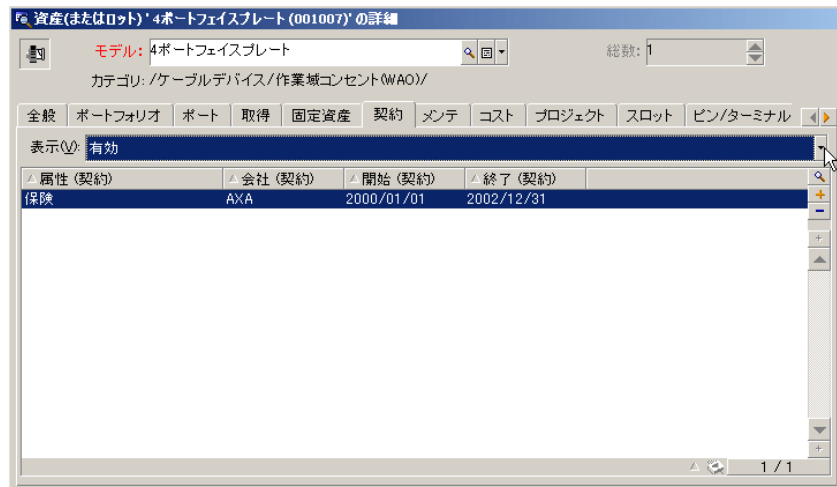
-  標準フィルタ：表示しているリスト専用の既定のフィルタです。例えば、部署と従業員のリストを表示している場合は、従業員のみ、部署のみ、または両方を表示できるフィルタを使用できます。
-  シンプルフィルタ：このフィルタでは、選択条件を1つだけ指定します。テーブルまたはリンクしているレコードに含まれている情報だけを選択条件として使います（例えば、従業員のリストの場合、選択条件として従業員名は使用できますが、配属先の場所は使用できません）。
-  クエリフィルタ：このフィルタではユーザが作成するクエリを実行します。クエリを使うと、リストまたはリンクしているテーブル内の複数の情報を選択条件として組み合わせることができます。
- 専用フィルタ：詳細ウィンドウの一部のタブには、リンクされたレコードリスト（任意管理項目、経費明細など）が表示されます。この詳細リスト専用のフィルタがドロップダウンリストに表示されることもあります。フィルタの条件により、リストの一部のレコードのみを表示できるようになります。

図 3.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ



2つ以上のフィルタを適用

リストには以下の数種のフィルタを同時に使用することができます。

- 状況に応じて自動的に適用されるフィルタ。詳細画面のフィールド値の組み合わせに応じて、表示される内容が変化します。例えば、リンクのドロップダウンリスト内に表示されるレコード値は自動的に状況に応じて変化します。ユーザは、フィルタが適用されていることは直接には分かりません。

- ユーザプロファイルの「アクセス制限」に応じて適用されるフィルタ。アクセス制限を適用すると、ユーザプロファイルのクエリで定義されている条件に一致するレコードだけが表示されます。ユーザには、これらのフィルタが適用されていることは直接分かりません。
- リストにフォアグラウンドで適用するフィルタ（シンプル、クエリ、標準、専用フィルタ）。これらのフィルタは、他で定義され、表示リストに特有のメニューからアクセスできます。ユーザにはこれらのフィルタが適用されていることが左側のフィルタ枠ではっきりと分かります。
- リストにバックグラウンドで適用するフィルタ。これらのフィルタは、ショートカットメニュー [リストの設定] の [フィルタ(WHERE句)] タブで定義します。この種類のフィルタが適用されると、🚩 アイコンがリストの右下隅にカラーで表示されます（このアイコンを直接クリックすると、[フィルタ] タブが表示されます）。

Webクライアント

フィルタは、リストの上にある [フィルタ] ドロップダウンリストから選択できます。

このドロップダウンリストの内容：

- テーブルインデックスフィルタ。インデックスが主キー上でない場合と、フィールドまたはリンクのいずれかが画面の一部である場合のみ。
管理者がAssetCenter Database Administratorを使ってこれらの規則に従うインデックスをテーブルに追加すると、その新しいインデックスがフィルタリストに表示されます。
- リストにレコードが表示されたテーブルがコンテキストであるクエリフィルタ。
ユーザがクエリを追加すると、そのクエリがフィルタリストに表示されます。
- 画面に事前フィルタが定義された場合のフィルタ（AssetCenter Database Administratorでの画面の詳細のQBEフィールド）。

Windowsクライアントのフィルタ操作



警告:

このセクションはWebクライアントには該当しません。

- フィルタはリストに表示される行の数を減らしますが、列の数には影響しません。



- 階層構造になっているテーブルは、レコードの従属関係をツリー構造で表示することができます。フィルタ条件に一致するレコードは明確に表示され、一致しないレコードは灰色で表示されます。
- メインリストのフィルタを保存する場合は、ビューとして（[ツール]メニュー）保存します。
- フィルタを適用するには、フィルタの指定領域に表示される  アイコンをどれか1つ押します。このアイコンが表示されない場合は、指定したフィルタが自動的に適用されていることを意味します。アイコンが淡色  で表示される場合は、フィルタによる検索が既に実行されたことを示します。フィルタ条件を変更または追加すると、通常アイコンに戻ります。
- データベースの変更事項をフィルタに反映させるには、[F5] キーを押すか、または[ウィンドウ/更新]コマンドを使います。
- 複数のフィルタを同時に適用すると、AND条件（ORではなく）で適用されます。フィルタで1つのレコードが表示される場合、そのレコードは複数フィルタのすべての条件を満たす必要があります。
- フィルタを定義する論理的条件を作成するには、以下の比較演算子を使用します。

表 3.1. 比較演算子

演算子	説明
すべて	条件に制約はありません（これは特定の場合にのみ表示されます。）
=	等しい
>	より大きい
<	より小さい
>=	以上
<=	以下
<>	等しくない
LIKE	= 演算子のように機能し、ワイルドカード文字（任意の文字列には %、固有の文字には _）を使用できます。例えば、場所のテーブルから「横浜ビル」の従属所在地を探すには、LIKE '横浜ビル/%' を使います。
NOT LIKE	


Windowsクライアントのフィルタの使用



警告:

このセクションはWebクライアントには該当しません。


フィルタを使ってレコードを選択するには、次の2つの方法があります。

- フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタをメインリストに適用する。これらのフィルタの定義は、表示しているリストのウィンドウ左側に表示されます。
 - バックグラウンドでクエリフィルタを全リストに適用する。このフィルタの定義はリストを表示するウィンドウには表示されませんが、 アイコンがカラーで表示されるため、フィルタが適用されていることがわかります。
-

 注意:

この2つの方法を同時に使うこともできます。フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタを適用しながら、バックグラウンドで1つのフィルタを適用することも可能です。

フィルタを削除するには、以下の方法があります。

- リストに適用したすべてのフィルタを削除するには、ショートカットメニューまたは表示中のリストの専用メニューから [フィルタなし] メニューを選択します。
 - 適用したフィルタの1つを削除するには、
 - 1 無効にするフィルタの定義上にマウスを置きます。
 - 2 マウスの右ボタンをクリックして、ショートカットメニューを表示します。
 - 3 [このフィルタを削除] を選択します。
 - バックグラウンドで適用したAQLクエリフィルタを削除するには、ショートカットメニュー（マウスで右クリック）の [ユーティリティ / リストの設定] で、[フィルタ (WHERE 句)] タブを選択します。  ボタンをクリックします。
-

 注意:

AssetCenterはクエリの結果をできる限り高速で表示します。大量のレコードを含むデータベースでも、データ処理を最適化することにより、即時に結果を表示することも可能です。結果が表示される速度は、使っているデータベースエンジン、ネットワーク速度、およびデータベースのサイズによって異なります。

Windowsクライアントに1つまたは複数のシンプルフィルタを適用する



警告:

このセクションはWebクライアントには該当しません。


シンプルフィルタはメインリストのみに適用されるため、フォアグラウンドのフィルタになります。



- 1 フィルタを適用するレコードリストを表示します。
- 2 リストの専用メニュー（ [編集] の右側のメニュー ）から [シンプルフィルタ] コマンドを選択します。

リストの左上部分にフィルタ定義用の枠が表示されます。



注意:

フィルタを適用するフィールドまたはリンクにカーソルを置いて右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。 [このフィールドで検索] または、 [このリンクで検索] を選択します。  をクリックすると、対応するレコードがリスト内に表示されます。

- 3 フィルタを適用するオブジェクトを  右のドロップダウンリストから選択します。
- 4 ドロップダウンリストから比較演算子を選択します。
- 5 ドロップダウンリストで選択したオブジェクトと比較する値を入力します。
リンク先のテーブルが階層構造である場合、 [ナビゲーション] 項目の [ドロップダウンリストをツリー構造で表示] オプションを選択すると、リストの下にチェックボックスが表示されます。これをオンにすると、選択されたオブジェクトの従属項目にもフィルタが適用されます。
- 6  をクリックすると、フィルタが適用されたレコードが表示されます。
- 7 別のフィルタを適用するには、専用メニューから [フィルタの追加 / シンプルフィルタ] を選択するか、リストを右クリックしてショートカットメニューから [フィルタの追加 / シンプルフィルタ] を選択します。

Windowsクライアントにクエリフィルタを適用する

警告:

このセクションはWebクライアントには該当しません。

- 1 リストを選択し表示します。
- 2 専用メニューまたはショートカットメニューの [クエリフィルタ] コマンドまたはショートカットメニューを使って、フィルタ定義用の枠を表示します。
- 3 フィルタ定義用の枠内の第1のフィールドにはドロップダウンリストがあります。リストから既存のクエリを1つ選択します。

フィルタ条件を定義するには、クエリのAQL式をテキスト用の枠内に入力します。


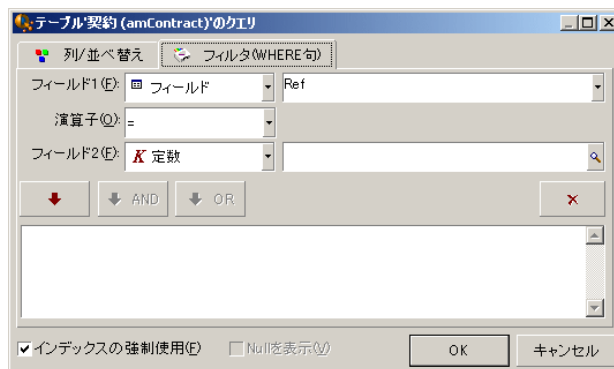

AssetCenterでクエリを簡単に作成するには、リスト内で右クリックしてショートカットメニュー [ユーティリティ/リストの設定] を選択するか、またはフィルタ定義用枠内の  をクリックします。

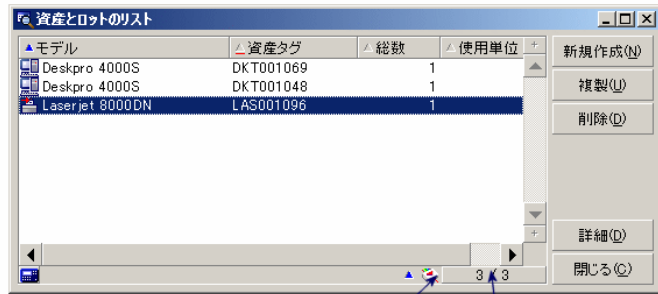
図 3.2. クエリの作成画面



- 1 [フィルタ] タブ内のフィールド1と2に値を入力し、フィルタの条件を定義します。演算子はこれらの2フィールドを論理的に比較します。

赤色の矢印をクリックすると、条件がクエリ内に挿入されます。  をクリックするとクエリは削除されます。クエリを確定するには、[OK] をクリックします。

2 フィルタの適用された資産のリストは以下のようになります。




バックグラウンドでフィルタが使用されている(つまり[リストの設定]ポップアップメニューでフィルタが作成されている)と、

アイコン  は  になります。

全フィルタで抽出されたレコードの総数の内、メモリに読み込まれたレコードの数。

右側の数の代わりに「？」が表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。

4  をクリックします。

4 ウィザードの概要

ウィザードの定義

AssetCenterのウィザードを使うと、単純で繰り返す必要のあるタスクを簡単に実行できます。ユーザは、画面に表示されるグラフィックの指示に従って、タスクを段階的に処理することができます。AssetCenterには、例えば次のタスクを実行できる定義済みのウィザードが用意されています。

- 1つの場所から他の場所にユーザと資産を移動する。ユーザ（従業員）、対応する割当て資産および新しい設置場所を選択すると、ウィザードによってこの情報が取り込まれ、資産とユーザの場所が更新されます。
- 在庫を簡単に管理する。在庫中の資産、ユーザ、設置場所を選択すると、ウィザードによって、資産が選択された従業員と設置場所に割り当てられます。
- 特定のアクションを実行するために必要な情報を収集する。
- レコードの入力を効率的に行う。

 **注意:**

AssetCenterに付属しているウィザードを使用するだけでなく、Windowsクライアントから新たにウィザードを作成することもできます。

ウィザードのユーザ

ウィザードは、通常のユーザだけでなくパワーユーザにとっても非常に便利な機能です。

- 通常のユーザは、AssetCenterの複雑なメカニズムを理解することなく複雑なタスクを実行できます。
- パワーユーザは、独自のウィザードを作成するか、社内のニーズに合うように既存のウィザードをカスタマイズできます

ウィザードの分類

ウィザードには、次の2つの種類があります。

- AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード
- データベースと関係がないウィザード（独立ウィザード）

AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード

このウィザードには、次の2つのタイプがあります。

データ入力ウィザード

このウィザードは、データベースへのデータ入力とデータからのレコード作成を素早く行うことを目的としています。例えば、「新しい従業員/部署」ウィザードは、部署と従業員テーブルにレコードを作成する手順を示します。従業員または部署に関する情報は、ウィザードによって収集され、対応するレコードが作成されます。ユーザは、詳細画面に直接情報を入力する必要はありません。ウィザードが実行します。

データ収集ウィザード

特定のアクションでは、AssetCenterデータベースの値または変数の値が必要です。データ収集ウィザードを使うと、必要な情報を簡単に収集し表示できます。例えば、「移動」ウィザードでは、移動する資産、これらの資産のユーザ、新しい設置場所に関する情報が収集されます。この情報に基づいて、データベースのデータが変更されます。

独立ウィザード

独立ウィザードは、基本的に、計算の実行や情報の表示に使われます。例えば、ユーザが入力した2つの値の合計を計算する「合計」ウィザードを作成することができます。

ウィザードの作成

ウィザードの作成は上級ユーザのみが行ってください。

▶ウィザードの作成については、マニュアル『高度な使い方』の「アクション」と「ウィザード」の章に記載されています。

ウィザードの使用

状況に依存しないウィザードをトリガする

Windowsクライアント

状況に依存しないウィザードは次の方法でトリガできます。

- [ツール/アクション]メニューから
- アクションが機能ドメインに関連付けられている場合のWindowsクライアントおよびWebクライアントのナビゲーションバー上の[機能]タブから

Webクライアント

状況に依存しないウィザードは、アクションが機能ドメインに関連付けられている場合は、ツリー構造ナビゲーションパネルからトリガできます。

コンテキスト依存ウィザードをトリガする

Windowsクライアント

状況依存ウィザードは、画面の詳細に表示されるボタンに関連付けることができます。そうすれば、ボタンをクリックしてウィザードをトリガすることができます。

例：従業員の詳細で、[+部署] ボタンをクリックすれば、部署を作成できます。

Webクライアント

状況依存ウィザードは、リスト画面の一番上にある[状況依存アクション]ドロップダウンリストからアクションを選択してトリガします。

例：発注リストで注文品の受領を示すには、[状況依存アクション]リストから[受領]アクションをトリガします。

ウィザードのナビゲーション

ウィザードは連続するページで構成されています。ユーザは、各ページで情報を選択したり、データを入力したりします。

ウィザードでは、次のように簡単にページ間を移動できます。

- ページに情報を正しく入力したら、[次へ] ボタンをクリックして次のページに移動します（移動先のページは遷移の設定によります）。最後のページまで進むと、このボタンは使用できなくなります。
- [戻る] ボタンをクリックすると、いつでも前のページに戻り、情報を訂正することができます。
- [終了] ボタンをクリックすると、ウィザードの最終アクションをいつでも実行できます。情報不足でウィザードが指定された処理を行うことができない場合は、必要な情報を入力するためのページが表示されます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、ウィザードの実行（および関連するアクション）を完全に取り消すことができます。

同じページにあるフィールドの値に依存する内容を持つウィザードページを更新します。

Windowsクライアント

更新は自動的に行われます。

Webクライアント

更新は自動的に行われません。

ウィザードの前または次のページを表示し、更新が必要なページに戻る必要があります。

これは使用できない場合もあります。

ウィザード使用時の制限事項

- ▶ アクション（ウィザードを含む）[献 113].

5 スケジュールのグラフィック表示 (Windowsクライアント)



警告:

この章はWebクライアントには該当しません。

概要

スケジュールのグラフィック表示とは

スケジュールのグラフィック表示とは、開始日時と終了日時、場合によっては期限を含むイベントを表記する機能です。

これらのイベントは、1つの独立したレコードまたは複数のレコードに関連します。

例

- 従業員の不在
- 契約期間

スケジュールのグラフィック表示のページは、単純なデータ（開始日時、終了日時、場合によっては期間）を表示するだけです。

このページには、緻密な計画作成の機能（全工程の管理など）はありません。

スケジュールのグラフィック表示がデフォルトで設定されている箇所

スケジュールのグラフィック表示は、デフォルトで以下のテーブルの詳細画面で使用可能になっています。

- 従業員（SQL名：amEmplDept）：[不在] タブの [プレビュー] サブタブでは不在を表示できます。
- 作業指示（SQL名：amWorkOrder）：[プレビュー] タブでは、スケジュール付きの作業指示を表示できます。
- 契約（SQL名：amContract）：[プレビュー] タブでは、契約でスケジュールが規定された作業指示を表示できます。
- プロジェクト（SQL名：amProject）：[プレビュー] タブではプロジェクトを表示できます。

スケジュールのグラフィック表示のページを追加できる箇所

スケジュールのグラフィック表示のページを、以下の箇所に追加することができます。

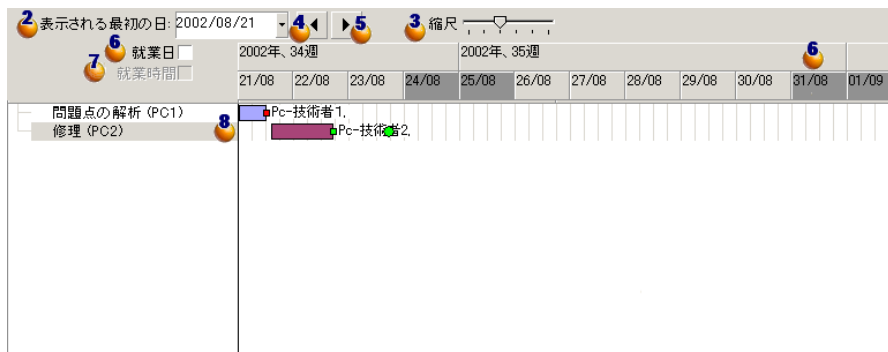
- テーブルの詳細画面（AssetCenter Database Administratorを使って追加する）
- ウィザード（AssetCenterを使って追加する）

追加は、少なくとも以下の情報がある場合に可能になります。

- 開始を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）
- 終了を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）

スケジュールのグラフィック表示のページの使用

図 5.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面



- 1 レコードを複数選択してスケジュールをグラフィック表示します。

2 8の枠の一番左側に表示する最初の日付を選択します。

3時間の縮尺を変更するには、スライダを左右に移動させるか、スライダの右側か左側をクリックするか、8枠をアクティブにしてから [Ctrl] を押しながらマウスホイールを回します。

4時間縮尺を左に移動する（前の時間に移動する）には、◀をクリックするか、8枠をアクティブにしてからマウスホイールを上に戻します。

5時間縮尺を右に移動する（後の時間に移動する）には、▶をクリックするか、8枠をアクティブにしてからマウスホイールを下に戻します。

6 [就業日] オプションをオンにすると休日为非表示になります。オフの場合休日は濃灰色で表示されます。[就業日] オプションは、3の [縮尺] に応じて有効または無効になります。

7 [就業時間] オプションをオンにすると勤務時間のみが表示されます。[就業時間] オプションは、3の [縮尺] に応じて有効または無効になります。

8 1のリストで選択されたレコードに関連するイベントのグラフィック表示。

- 横棒□は、イベントの開始と終了の間の期間を表しています。

イベントの開始と終了を定義するフィールドは、スケジュールのグラフィック表示のページで定義される内容に依存します。

横棒□上にポインタを置くと、イベントの重要な情報がヒントで表示されます。

横棒□をサイズを変えずに（すなわち、イベントの期間を変更せずに）移動させるには、マウスで棒を選択して動かします。イベントの開始と終了の日付のみが変更され、イベントの期間はそのままになります。

開始日時のみを変更する場合は、横棒□の左側にマウスポインタ置きます。ポインタの形状が変化したら、左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。終了日時は変更しません。

終了日時のみを変更する場合は、横棒□の右側にマウスのポインタを置きます。ポインタの形状がサイズポインタに変化したら、ポインタをドラッグしてバーのサイズを変更します。開始日時は変更しません。

データベースに変更事項を保存するには、[変更] ボタンで確定する必要があります。

イベントの詳細を新しいウィンドウに表示するには、□をダブルクリックします。



テーブル構造によっては、イベントをある行から別の行にドラッグできる場合があります。スケジュールのグラフィック表示-画面[献88]の図の例では、これによって作業指示を別の技術者に割り当てます。


- 赤色の丸印●と緑色の丸印●は期限を表します。これは、スケジュールのグラフィック表示のページ用に期限が定義されている場合です。例えば、作業指


示の [解決予定期限] (SQL名 : dtResolLimit) フィールドで定義する場合などです。「従業員の不在」の場合には表示されません。

期限が遵守されていない場合、丸印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。






- 赤い角印  と緑の角印  は、期限が存在することを表します。各角印は、同じ色の丸印に関連付けられています。

イベントの開始時用に期限が定義されていると、角印は横棒  の左に位置します。

イベントの終了時用に期限が定義されていると、角印は横棒  の右に位置します。


角印が関連する期限が遵守されていない場合、角印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。

- 緑の三角形  と  は、表示パラメータのために  枠に表示されないイベントを示します。
- 赤い角印  は、2つのイベントが重なる領域を示します。
- 緑のバー  は、イベントの進行割合を示します。



警告:

進行状況バーが表示されるのは、バー  が画面内に完全に含まれている場合だけです。

実用例

以下の実用例では、スケジュールのグラフィック表示の機能を説明します。

実用例の手順

実用例では以下の操作を実行します。

- 1 グループを1つ作成する
- 2 技術者を2人作成する
- 3 作業指示を2つ作成する
- 4 作業指示の重要な日付を表示する
- 5 重要な日付の一部を画面で変更する

手順1 - グループの作成

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 デモ用データベースへ接続します。
- 3 グループのリストを表示します ([ポートフォリオ / グループ])。

- 4 グループを1つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

フィールドの名前	フィールドのSQL名	値
名前	Name	実用例 - グループ

- 5 ウィンドウを閉じます ([閉じる] ボタン) 。

手順2 - 技術者の作成

- 1 従業員のリストを表示します ([ポートフォリオ / 部署と従業員]) 。
- 2 従業員を2人作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

タブ	フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
	名前	Name	PC - 技術者1	田中俊夫
グループ	グループのメンバー	EmplGroups	PC - グループ	PC - グループ

- 3 ウィンドウを閉じます ([閉じる] ボタン) 。

手順3 - 作業指示の作成

- 1 作業指示のリストを表示します ([ポートフォリオ / 作業指示]) 。
- 2 作業指示を2つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

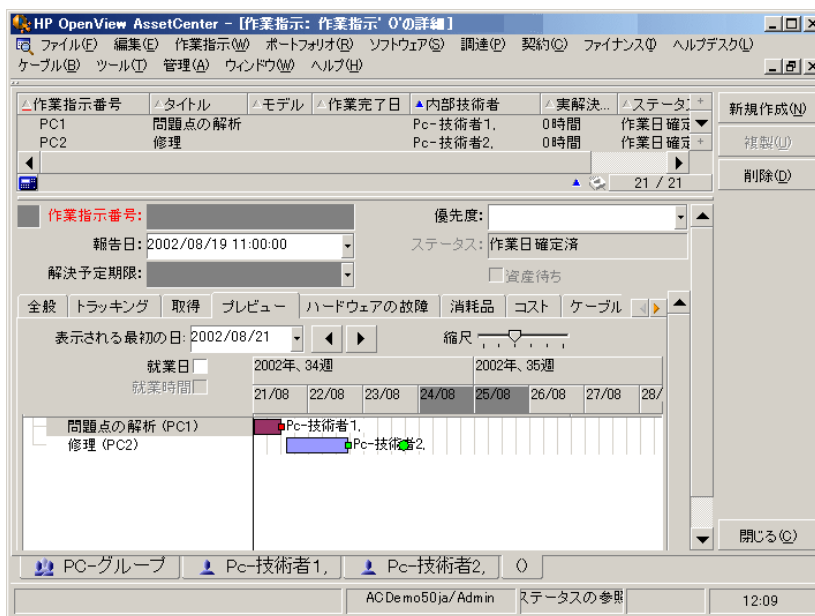
タブ	フィールドの名前	フィールドのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
	作業指示番号	WONo	PC1	PC2
	報告日	dtNotif	2002/08/19 11:00:00	2002/08/19 11:00:00
	解決予定期限	dtResolLimit	2002/08/20 17:00:00	2002/08/23 17:00:00
全般	タイプ	seType	内部メンテナンス	内部メンテナンス
全般	タイトル	Title	問題点の分析	修理
トラッキング / 技術者	内部技術者	Contact	PC - 技術者1	PC - 技術者2
トラッキング / スケジュール	開始予定日	dtSchedFixStart	2002/08/20 14:00:00	2002/08/21 14:00:00

タブ	フィールドの名前	フィールドのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
トラッキング / スケジュール	終了予定日	dtSchedFixed	2002/08/21 12:00:00	2002/08/22 17:00:00

手順4-2つの作業指示のスケジュールの表示

- 1 PC1とPC2の作業指示を両方選択します。
- 2 [プレビュー] タブページを選択します。

図 5.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例



- 3 [縮尺] スライダーと、 および ボタンを使って、2つの作業指示の全期間を表示します。

[縮尺] スライダーを使う代わりに、 枠を有効にしてから [CTRL] キーを押しながらマウスホイールを回すこともできます。

また、 および ボタンの代わりにマウスホイールを使うこともできます。ページの解釈方法は以下の通りです。

- 横棒□は、作業指示の開始予定日（SQL名：dtSchedFixStart）と終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）を表しています。
横棒の色は、選択された技術者に応じて変化します。
- 赤い丸印●と緑の丸印●は、期限（[解決予定期限]（SQL名：dtResolLimit）フィールドの日付）を表しています。
- 赤い角印■と緑の角印■は、期限が存在することを表しています。
- 作業指示「実用例1」の丸印●と角印■は、終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）が解決予定期限（SQL名：dtResolLimit）よりも後のため、赤色になっています。
- 作業指示「実用例2」の丸印●と角印■は、終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）が解決予定期限（SQL名：dtResolLimit）よりも前のため、緑色になっています。

手順5 - 日付を画面で変更する

- 1 作業指示のリストを表示します（[ポートフォリオ / 作業指示]）。
- 2 実用例1と実用例2を両方選択します。
- 3 [プレビュー] タブページを選択します。
- 4 「実用例1」の横棒□の内側にマウスのカーソルを置き、左ボタンで横棒全体を移動させます。
変更事項を[変更]ボタンを使って確定します。
[開始予定日]と[終了予定日]フィールドが変更されます。
- 5 「実用例2」の横棒□の左側にマウスポインタを置くと、ポインタの形状が変化します。左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。
[開始予定日]フィールドの値は変更されますが、[終了予定日]フィールドは変わりません。
- 6 □バーをダブルクリックすると、作業指示の詳細を表示した新しいウィンドウが開きます。

スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする

スケジュールのグラフィック表示の全ページの機能を設定するオプションは、[編集 / オプション]メニューの[表示 / スケジュールのグラフィック表示]項目で定義できます。

注意:

休日として指定できるのが土曜日と日曜日だけであるという点は変更不可能です。

6 データの印刷

本章では、AssetCenterでデータを印刷する方法について説明します。

概要

Windowsクライアント

[ファイル/印刷]メニューまたは[Ctrl+P]キーを使うと、フィルタや列の設定内容を適用して、全メインリストまたはレコードの一部を印刷できます。

AssetCenterでは2つのレイアウトを使用できます。

- 内部書式：この書式用のリストや詳細のテンプレートは書式のテーブルに含まれています。

[ツール/レポート機能/書式]メニューで書式のテーブルにアクセスすると、書式を作成、変更または削除できます（『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの「書式」に関する章を参照してください）。

- Crystal Reportsのレポート書式：この書式用のリスト、詳細、グラフ、例のテンプレートは[レポートのテーブルに含まれています。

使用可能なレポート書式を参照するには、[ツール/レポート機能/レポート]メニューでレポートのテーブルを開きます。Crystal Reportsでは新規レポートを追加作成できるため、内部書式よりも多彩な書式の設定が可能になります。この機能を使用するには、がインストールされている必要があります。（『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章を参照してください。）

Webクライアント

Microsoft Internet Explorerを使用する場合：

- 1 印刷する画面を表示します。
- 2 Webクライアントのワークスペースの右上にある印刷アイコンをクリックします。
新しいInternet Explorerウィンドウが表示されます。
- 3 Internet Explorerの印刷機能を使って、ウィンドウを印刷します。


リストの情報を印刷する

Windowsクライアント

- 1 メインリストを表示します。
- 2 [ファイル/印刷]メニューを選択します(ショートカットキー：[**Control+P**])。
- 3 [タイプ]のドロップダウンリストから、書式を1つ選択します。
 - 詳細(内部)：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「詳細」テンプレートに基づいて印刷します。
[書式]テーブルの[書式]フィールドには、印刷するメインリスト用の詳細書式が表示されます。[書式]で印刷の内容と書式を指定します。
 - リスト(内部)：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「リスト」テンプレートに基づいて印刷します。
[書式]テーブルの[書式]フィールドには、印刷するメインリスト用のリスト書式が表示されます。[書式]で印刷の内容と書式を指定します。
 - 詳細レポート(Crystal Reports)：メインリストの1レコードを、詳細テンプレートに基づいて印刷します。
複数のレコードを印刷するには、各レコードごとに印刷の手順を繰り返す必要があります。印刷用ダイアログボックスの[書式]フィールドには、参照テーブル付きのレポートが表示されます。ここに表示されるレポートの[テーブル](SQL名：TableName)フィールド([レポート]テーブル内)は、印刷する現在のテーブルに一致します。レポートは印刷の内容と書式を指定します。
 - 規定レポート(Crystal Reports)：全てのレポート用テンプレートから印刷するテンプレートを選択できます。
選択されている現在のメインリストとは無関係に印刷が実行されます。印刷用ダイアログボックスの[書式]フィールドには、参照テーブルを明記しないレポートが表示されます。[レポート]テーブル内の[テーブル](SQL名：TableName)フィールドが空の場合のみ、レポートがこのフィールドに表示されます。レポートは印刷の内容と書式を指定します。

- 4 [書式] のドロップダウンリストから書式を選択します。
- 5 [印刷] をクリックします。

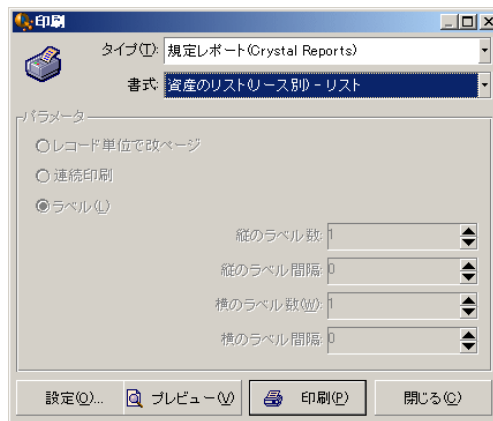
Webクライアント

- 1 印刷するリストを表示します。
- 2 Webクライアントのワークスペースの右上にある  アイコンをクリックします。
新しいInternet Explorerウィンドウが表示されます。
- 3 Internet Explorerの印刷機能を使って、ウィンドウを印刷します。

レコードの詳細の印刷

Windowsクライアント

メインリストから複数のレコードを印刷する前に（[タイプ]（SQL名：Type）フィールドで「詳細（内部）」を選択）、3つのラジオボタンから印刷設定を1つ選択する必要があります。



- レコード単位で改ページ：各レコードの詳細を改ページして印刷します。
- 連続印刷：改ページせずに、各レコードの詳細を連続して印刷します。
- ラベル：以下のパラメータに基づき、各レコードの詳細にラベルを付けて印刷します。
 - 縦のラベル数
 - 縦のラベル間隔：ラベルの行間隔をミリメートル単位で設定します。

- 横のラベル数
 - 横のラベル間隔：ラベルの列間隔をミリメートル単位で設定します。
-



注意:

レコードを1つしか選択しない場合は、これらのパラメータは不必要なため使用不可能になります。

Webクライアント

- 1 印刷する詳細を表示します。
 - 2 Webクライアントのワークスペースの右上にある🖨️アイコンをクリックします。
新しいInternet Explorerウィンドウが表示されます。
 - 3 Internet Explorerの印刷機能を使って、ウィンドウを印刷します。
-

印刷プレビュー

Windowsクライアント

印刷プレビューを表示するには、[プレビュー]をクリックします。

印刷プレビューウィンドウでは次の操作を行うことができます。

- 使用するプリンタの変更（[設定] ボタン）
- 書式の余白および拡大/縮小率の変更（[ページ設定] ボタン）
- データの印刷（[印刷] ボタン）
- 書式の他のページの表示（[次ページ] ボタンおよび[前ページ] ボタン）

Webクライアント

Microsoft Internet Explorerを使用する場合：

- 1 印刷する詳細を表示します。
- 2 Webクライアントのワークスペースの右上にある🖨️アイコンをクリックします。
新しいInternet Explorerウィンドウが表示されます。
- 3 ブラウザの印刷プレビュー機能を使用します。

7 WindowsクライアントとWebクライアントの違い

AssetCenterデータベースには次の方法でアクセスできます。

- Windowsクライアント経由
- Webクライアント経由

本章では、両クライアント間の主な違いについて説明します。

概要

通常のユーザの場合、AssetCenter作業は主にAssetCenterデータベースに保存されている情報の管理で構成されます。

ほとんどの場合、データベースは多くのユーザがアクセスできるサーバに保存されます。

WindowsクライアントとWebクライアントは、AssetCenterデータベースにアクセスするためのコンポーネントです。

次の表に主な違いを示します。詳細については本書で後述します。

	Windowsクライアント	Webクライアント
サポートされているプラットフォーム	Windows	AssetCenter互換性一覧にリストされているプラットフォーム
インストール	Windowsクライアントはユーザのワークステーションにインストールすること。	AssetCenter互換性一覧にリストされているインターネットブラウザ

	Windowsクライアント	Webクライアント
使用可能な機能	使用可能なすべての機能	一部の機能は使用不可能。 Webクライアントには将来のバージョンで機能が追加される予定。
インタフェース	従来のインタフェース	標準Webインタフェースに準拠

最小のクライアントインストールと構成

Windowsクライアント

各クライアントステーションで：

- 1 Windowsクライアントをインストールします。
- 2 Windowsクライアントを起動します（Windowsメニューの [スタート / プログラム / HP OpenView / AssetCenter 5.00 / HP OpenView AssetCenter] ）。
- 3 データベースへの接続を作成します（ [ファイル / 接続の管理] メニュー）。

Webクライアント

各クライアントステーションで：

- 1 AssetCenter互換性一覧にリストされているインターネットブラウザが各ステーションにインストールされていることを確認します。
- 2 使用する言語バージョンのAssetCenter Web Tierを指し示すショートカットまたはブックマークを作成します。

AssetCenterデータベースへの接続

Windowsクライアント

AssetCenterデータベースに接続するには：

- 1 Windowsクライアントを起動します（Windowsメニューの [スタート / プログラム / HP OpenView / AssetCenter 5.00 / HP OpenView AssetCenter] ）。
[データベースに接続] ウィンドウが表示されます。
- 2 社内のAssetCenter管理者から提供された情報をフィールドに入力します。

Webクライアント

AssetCenterデータベースに接続するには：

- 1 AssetCenter互換性一覧にリストされているインターネットブラウザを起動します。
- 2 社内のAssetCenter管理者から提供されたURLを使って、AssetCenter Web Tierに接続します。

クライアント間の違い


このセクションでは、WebクライアントとWindowsクライアントの違いについて説明します。

このリストは、AssetCenterの将来のバージョンでは変更される場合があります。

グラフィカルインタフェース


目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
データベースとインタフェース（データベースデータではなく）から、マルチリンガルオブジェクト用の表示言語を選択します。	1 AssetCenter Database Administratorを使って、AssetCenterデータベースに使用する言語のパラメータを追加します。	1 AssetCenter Database Administratorを使って、AssetCenterデータベースに使用する言語のパラメータを追加します。
例：メニューエントリ、フィールドとリンクのラベル、エラーメッセージ	2 希望する言語のAssetCenterクライアントをインストールします。 3 希望する言語のWindowsクライアントを起動します。	2 希望する言語のAssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceをインストールします。 3 サポートしているインターネットブラウザを起動します。 4 希望の言語バージョンのAssetCenter Web Tierアプリケーションに接続します。
		注意: 使用する各言語でAssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceの組み合わせをインストールする必要があります。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
ショートカットメニューを使用する	右クリックするとショートカットメニューが表示されます。ショートカットメニューに表示される項目は、右クリックしたときにカーソルが画面のどの位置にあったかによって異なります。例えば、リストでは [ツリー構造] ショートカットメニューが使用できます。	ショートカットメニューは使用できません。そのうち一部は、任意のテーブルに有効であるアクション、フィルタ、および統計を含むドロップダウンリストによって置き換えられました。
AssetCenterワークスペースに複数のウィンドウを表示する	AssetCenterワークスペースに複数のウィンドウを表示できます。	インターネットブラウザには、一度に1つのAssetCenterワークスペースウィンドウのみを表示できます。
インタフェースオプションを定義する	[編集 / オプション] メニューで、Windowsクライアントインタフェースの動作を設定できます。	Webクライアントインタフェースの動作を設定するオプションはありません。
ウィンドウを表示する 例：場所のリストや詳細を表示する	ウィンドウはメニューから表示する： <ul style="list-style-type: none"> ■ メニューバーで 例： [ポートフォリオ / 場所] メニュー ■ ツールバーで 例： [場所] アイコン ■ ナビゲーションバーの [機能] タブ 例： [組織 / 場所] 	左側のナビゲーションパネルでリンクをクリックするとウィンドウが表示されます。 例： [組織 / 場所] メニュー
インターネットブラウザのボタンを使用する Microsoft Internet Explorerの例： [戻る] および [進む] ボタン	使用不可能	[FieldLinkX] フィールドまたはリンクの値を変更する場合を考えます。 [保存] ボタンをクリックする前、または別のフィールドやリンクを選択する前にInternet Explorerブラウザのいずれかのボタンをクリックした場合、別の変更を保存すると ([保存] ボタンを使用して)、 [FieldLinkX] への変更は保存されません。
レコードのリストと詳細：使用可能な表示のタイプ	次の表示モードを使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ リストのみ ■ 詳細のみ ■ リストと詳細 	次の表示モードを使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ リストのみ ■ 詳細のみ

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
レコードのリストと詳細：表示モードの切り替え	<p>次を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [ウィンドウ/リストのみ]、[ウィンドウ/詳細のみ]、および [ウィンドウ/リストと詳細] メニュー ■ ツールバーの対応するアイコン ■ [詳細] ボタン 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リストから詳細に移動するには： レコードのリンクをクリックして、リストを表示します。 ■ 詳細からリストに移動するには： 詳細の [リストに戻る] をクリックします。
新規社内メッセージを自動的に表示する	<p>新規メッセージを受信すると、ダイアログボックスが表示され、メッセージを読むかどうか尋ねられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ データベースへの接続時 ■ 接続中 <p>[はい] をクリックすると、メッセージを表示するためにウィザードが開きます。</p>	<p>データベースの接続時に、リンクによってユーザに新規メッセージがあることが通知されます。</p> <p>メッセージを読むためのリンクをクリックすると、ウィザードが開きます。</p>
モジュール有効/無効	[モジュールの起動]	使用不可能
リストと詳細画面のレコードに関連付けられたアイコンとグラフィックスを表示する	使用可能	使用不可能
例：レコード詳細の左上にあるアイコン、フロアプランの [全般] タブ		
ニュースマーカーを表示する	[ウィンドウ/ニュースマーカーの表示] メニュー	使用不可能
ビューを使用する	ビューの作成、変更、削除、表示が可能 ([ツール/ビュー] メニュー)	ビューの作成、変更、削除、表示はできない
アクセシビリティオプションを起動する (視覚障害のあるユーザ向け)	使用可能	インターネットブラウザのアクセシビリティオプションを使用します。
お気に入りを作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナビゲーションバーの [機能] タブで、お気に入りに追加するリンクを選択します。 2 右クリックします。 3 表示されているショートカットメニューから [お気に入りに追加] を選択する。 	<p>Microsoft Internet Explorerを使用する場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ブラウザのお気に入りに追加する画面を表示する 2 Webクライアントのワークスペース右上にある  アイコンをクリックします。 そのページへのリンクが作成され、Internet Explorerの [お気に入り] に追加されます。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
現在のウィンドウの内容を印刷する（リストの詳細、ウィザードページなど）	使用不可能	Microsoft Internet Explorerを使用する場合： <ol style="list-style-type: none"> 1 印刷する画面を表示します。 2 Webクライアントのワークスペースの右上にある  アイコンをクリックします。 新しいInternet Explorerウィザードが表示されます。 3 Internet Explorerの印刷機能を使ってウィンドウを印刷します。

レコードリスト

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
リストのレコードにフィルタを適用する	次を適用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [<テーブル名>/フィルタなし]、 [<テーブル名>/シンプルフィルタ]、および [<テーブル名>/クエリフィルタ]メニュー ■ [このフィールドで検索] および [このリンクで検索] ショートカットメニュー ■ リストの一番下にある  アイコン ■ ビューに保存されたフィルタ 	

フィルタは、リストの上にある [フィルタ] ドロップダウンリストから選択できます。

このドロップダウンリストの内容：

- テーブルインデックスフィルタ。インデックスが主キー上にない場合と、フィールドまたはリンクのいずれかが画面の一部である場合のみ。

管理者がAssetCenter Database Administratorを使ってこれらの規則に従うインデックスをテーブルに追加すると、その新しいインデックスがフィルタリストに表示されます。

- リストにレコードが表示されたテーブルがコンテキストであるクエリフィルタ。

ユーザがクエリを追加すると、そのクエリがフィルタリストに表示されます。

- 画面に事前フィルタが定義された場合のフィルタ (AssetCenter Database Administratorでの画面の詳細のQBEフィールド)。


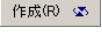

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
特定の列を基準にレコードを並び替える	<p>メインリスト、セカンダリリスト（タブの下のリスト）の両方も並び替えができます。</p> <p>特定の列を基準にリストを並び替えるには、その列の名前をクリックします。</p> <p>クリックするたびに並び順が変わります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 並び替えなし 昇順 降順 並び替えなし 昇順 降順 	<p>メインリストは並び替えができませんが、セカンダリリスト（タブの下のリスト）はできません。</p> <p>列を並び替えるために、列に対応するフィールドまたはリンクには、以下の条件が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 画面が属するテーブルの一部であること。 ■ 画面が属するテーブルのインデックスの固有フィールドまたはリンクであること。 <p>特定の列を基準にリストを並び替えるには、その列の名前をクリックします。</p> <p>クリックするたびに並び順が変わります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 並び替えなし 昇順 降順 昇順 降順 <p>Webクライアントでは、[並び替えなし]ステータスに戻すことはできません。</p>
リストに表示するレコード数と表示方法をカスタマイズする	<p>リストのレコード数と表示方法は [編集 / オプション / リスト / メインリスト] または [編集 / オプション / リスト / その他のリスト] で設定します。</p>	<p>デフォルトでは、リスト1ページに20レコードが表示されません。</p> <p>Windowsクライアントのメニューオプション、[編集 / オプション / リスト / メインリスト]、[編集 / オプション / リスト / その他のリスト] は実装されていません。</p>
テーブル内のレコード合計数を計算する	<p>レコードリストの右下にある [x/?] ボタンをクリックして計算します（メインリストとセカンダリリスト）。</p>	<p>レコードリストの右上にある [更新] リンクをクリックします（メインリストのみ）。</p>

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
リスト内のすべてのレコードを選択する	メインリスト、セカンダリリスト（タブの下のリスト）両方のすべてのレコードを選択できます。[編集/すべて選択]メニュー	セカンダリリスト（タブの下のリスト）ではなくメインリストのすべてのレコードを選択できます。列名の左にあるチェックボックス 表示可能なレコードのみが選択されます。
ツリー構造でリストを表示する	階層テーブルのレコードリストはツリー構造で表示できます（[ウィンドウ/ツリー構造]）。	階層テーブルのレコードリストをツリー構造で表示することはできません。
リスト内ですばやくレコードを検索する	リスト内のレコードをすばやく検索するには、対象の列でリストを並べ替え、[ジャンプ]ショートカットメニューを使用します。	[ジャンプ]コマンドは、現在のところWebクライアントでは使用できません。
リストの内容をエクスポートする	[ユーティリティ/リストのエクスポート]ショートカットメニュー項目。	リストの表示内容をクリップボードにコピーできます。
リストのレコードをグループ分けする	[このフィールドでグループ分け]ショートカットメニュー。	使用不可能
リストに表示する列を選択する	デフォルトで、リストに表示される列は、AssetCenter Database Administratorによって画面に定義されるフィールドおよびリンクに対応します([リストの列]フィールド)。 [ユーティリティ/リストの設定]ショートカットメニューを使用して、デフォルト列の選択を変更します。	リストに表示される列は、AssetCenter Database Administratorによって画面に定義されるフィールドおよびリンクに対応します([リストの列]フィールド)。
リストの統計を表示する	<ol style="list-style-type: none"> 1 リストを表示します。 2 統計を表示する列で並べ替えます。 3 [ユーティリティ/この列に関する統計]ショートカットメニュー。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 リストを表示します。 2 [統計]リストから統計を選択します。 <p>リストには、以下の項目ごとにエントリが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テーブルインデックス（インデックスが主キー上にある場合を除く） ■ コンテキストがテーブル上にある統計
リスト内の列の数を加算する	リストの左下にある[計算]アイコンをクリックします。	使用不可能
レコードを削除する	レコードを選択して、[削除]ボタンをクリックします。	レコードを選択して、[削除]状況依存アクションを選択します。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
レコードの事前フィルタウィンドウを表示する	使用可能	使用不可能
詳細リストからレコードを切り取り、コピー、または貼り付ける	状況によっては、[編集]メニューまたは対応するショートカットを使用できます。	使用不可能

レコードの詳細

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
フィールドがメインタブの一部で、リンクがタイプ1の場合、タブ内のフィールドとリンクの整理。 例：ポートフォリオ品目の詳細、[取得]タブ。	これらのタブにはサブタブが含まれます。 例：ポートフォリオ品目詳細の[取得]タブには、サブタブ[価格と条件]と[調達]があります。	これらのタブには、Windowsクライアントのサブタブに相当するフレームがあります。 例：ポートフォリオ品目詳細の[取得]タブには、フレーム[価格と条件]と[調達]があります。
レコードの詳細を編集集中に、その場でレコードを作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1 リンクの編集ゾーンで、リストのレコードを選択するのではなく、値を入力します。 2 カーソルをリンク編集ゾーンの外に置きます。 Windowsクライアントでは、リンク先のテーブルにレコードを作成できます。 	使用不可能
タブ内のタイプnリンクを整理する 例：資産またはロットの詳細、[ポートフォリオ]タブ	リンクしているレコードは、リストでも、一連のタブでも表示できます。	リンクしているレコードはリストとして表示されます。
金額フィールドを表示する	金額フィールドには金額と通貨記号が表示されます。 記号の位置は通過の詳細で定義します。 記号は手動で編集できます。 基本通貨の為替レートを表示するには、金額フィールドの右側にあるアイコンをクリックします。	金額フィールドには、通貨記号のない金額が表示されます。 通貨記号は、金額の右側のドロップダウンリストに表示されます。 通貨の詳細で定義した位置は実装されません。 基本通貨の為替レートは表示できません。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
カスタマイズ可能なリストデータを使用する	<p>カスタマイズ可能なリストデータを使って入力したフィールドには、右側にアイコンが付いています。</p> <p>アイコンをクリックすると、値リストが表示されます。</p> <p>リストから値を選択することも、新たに値を入力することもできます。</p> <p>リストデータが開いていれば値が追加されます（値リストはユーザによる変更が可能です）。</p>	<p>カスタマイズ可能なリストデータを使って入力したフィールドには、右側にアイコンが付きません。</p> <p>フィールド編集ゾーンにカーソルを置くと、値リストが表示されます。</p> <p>リストから値を選択することも、新たに値を入力することもできます。</p> <p>リストデータが開いていれば値が追加されます（値リストはユーザによる変更が可能です）。</p>
詳細画面で表示するように、タブの下のリストを設定する	[タブページの設定] ショートカットメニュー	使用不可能
[planner viewer(スケジュール表示)] ページを表示する	使用可能	使用不可能
例：作業指示の詳細、[プレビュー] タブ		
依頼、発注、受領、請求に使用する [トラッキング] タブを表示する	使用可能	使用不可能
[日付] 型フィールドにアラームを定義する	[日付] 型フィールドの右側にある  アイコン	使用不可能
BASICスクリプトエディタを使用する	[BASICスクリプト] 型フィールドの右側にあるアイコンをクリックします。	使用不可能
レコード詳細の [ワークフロー] タブを表示します。	使用可能	グラフィック部分の使用不可能
AssetCenterデータベースにテーブルを指定するフィールドを入力します。	リストからテーブルを選択する	テーブルのSQL名の表示のみ可能
例：特殊フィールドの詳細、[テーブル] (TableName) フィールド。		
フィールドまたはリンクを設定する	[オブジェクトの設定] ショートカットメニュー	使用不可能
詳細ウィンドウの情報を新規レコードとして保存し、現在の情報に基づいて新規レコードを作成する	 ボタン	使用不可能
レコードを削除する	リストが表示されていないときは使用できません。	[削除] ボタン
ドロップダウンリストからレコードを選択して、リンクを入力する	 ボタン	使用不可能

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
フィールド内のテキストの切り取り、コピー、貼り付け、削除を行う	[編集]メニューまたは該当するショートカットを使用します。	OSまたはブラウザのコマンドを使用します。
データベースに保存されているドキュメントを変更します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ドキュメントを添付するレコードの詳細を表示します。 2 [ドキュメント]タブを表示します。 3 変更するドキュメントの詳細を表示します。 4 [実行]をクリックします。 5 ドキュメントに対して行う変更をデータベースに統合しますか?というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。 6 ドキュメントを変更します。 7 ドキュメントに対して行った変更を保存します。 8 ドキュメントを閉じます。 9 ドキュメントを添付するレコードの[ドキュメント]タブに戻ります。 10 [変更]をクリックします。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ドキュメントを添付するレコードの詳細を表示します。 2 [ドキュメント]タブを表示します。 3 変更するドキュメントの詳細を表示します。 4 [エクスポート]をクリックします。 5 ドキュメントをローカルディスク (AssetCenterの外側) に保存します。 6 保存したドキュメントの編集および変更を行います。 7 ドキュメントに行った変更を保存します。 8 ドキュメントを閉じます。 9 ドキュメントを添付したレコードの[ドキュメント]タブに戻ります。 10 [切断]をクリックします。 11 変更したドキュメント (アップロードフィールドの右のボタン) を選択します。 12 [OK]をクリックします。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
期間の入力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 数量と単位の間スペースを入れることができます。 ■ 以下の少数点を使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ . ■ / ■ 単位なしで値を入力すると、フィールドのデフォルト単位が適用されます。 ■ 整数ではない値を入力する際、以下の要領で入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0,1 ■ 0.1 ■ ,1 ■ .1 ■ 数字の間に区切り文字（ピリオド、カンマ、スペースなど）を入力しないでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 数量と単位の間には少なくとも1つのスペースを空ける必要があります。 ■ 使用する小数点は、アプリケーションサーバの地域設定で定義されている少数点です。 ■ 単位なしで数値を入力できません。 ■ 単位はどのような順番でも入力できます。

レコードのアクション

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
別のテーブルのサブレコードで構成されるレコードを作成する 例： 発注明細となる発注を作成する		

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
	<p>1 発注リストを表示します（[調達/発注と見積]メニュー）。</p> <p>2 新規発注の詳細を表示します（[新規]ボタン）。この段階では発注は作成されていません。発注作成の取り消しが可能です（[キャンセル]ボタン）。</p> <p>3 発注を作成します（[作成]ボタン）。発注明細を追加する場合、これは必須です。レコードが作成され、作成プロセスの取り消しができなくなります。ただし、レコードを削除することは可能です（[削除]ボタン）。</p> <p>4 [明細]タブを表示します。</p> <p>5 発注明細を追加します（[+]ボタン）。この段階では発注明細は作成されていません。発注作成の取り消しが可能です（[キャンセル]ボタン）。</p> <p>6 発注に発注明細を追加します（[追加]ボタン）。発注明細が作成され、発注に追加されます。発注プロセスを取り消すことはできません。ただし、レコードを削除することは可能です（[-]ボタン）。</p>	<p>1 発注リストを表示します（左側ナビゲーションパネルの[調達/発注と見積]リンク）。</p> <p>2 新規発注の詳細を表示します（[新規]ボタン）。この段階では発注は作成されていません。発注作成の取り消しが可能です（[キャンセル]ボタン）。</p> <p>3 [明細]タブを表示します。</p> <p>4 発注明細を追加します（[追加]ボタン）。この段階では発注も明細も作成されていません。発注作成の取り消しが可能です（[キャンセル]ボタン）。</p> <p>5 発注に発注明細を追加します（[OK]ボタン）。発注が作成されます。明細が作成され、発注に追加されます。発注作成プロセスを取り消すことはできません。ただし、発注と明細を削除することは可能です（[削除]ボタン）。</p>
レコードの拡張削除を許可する 例：場所を削除する場合は、次の選択が可能です。	この選択を設定するには：	使用不可能
<ul style="list-style-type: none"> ■ 場所にリンクされている従業員を削除する ■ 場所へのリンクを削除する ■ 従業員に別の場所を割り当てる 	<p>1 [編集/オプション]メニューを選択します。</p> <p>2 [拡張削除の許可]に値[はい]を割り当てます。</p>	

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
レコードの選択を変更する	選択した複数のレコードの値を同時に変更することができません。	使用不可能
レコードを変更する（複数のユーザが同じレコードで作業中）	[変更] をクリックした最後のユーザに警告メッセージが表示され、別のユーザが先に行った変更を上書きするか、自分が行った変更を取り消すように求められます。	[保存] をクリックした最後のユーザに警告メッセージが表示されます。そのユーザは自分が行った変更を保存することはできません。
n回レコードを複製する	[編集 / 複製] メニュー	使用不可能

ヘルプ

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
フィールドまたはリンクの状況依存ヘルプを表示する	[ヘルプ / フィールドのヘルプ] メニュー	使用不可能
オンラインヘルプを表示する	[ヘルプ / インデックス] メニュー	使用不可能
ワンポイントを表示する	[ヘルプ / ワンポイント] メニュー	使用不可能
「readme.txt」ファイルを表示する	[ヘルプ / Readme] メニュー	使用不可能
AssetCenterとその環境に関する情報を表示する	[ヘルプ / AssetCenter のバージョン情報] メニュー	ワークスペースの一番上にあるバナーをダブルクリックします。 Windowsクライアントで使用可能な情報の一部のみを使用できます。

アクション（ウィザードを含む）

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
サポートされているアクションのタイプ	すべてのアクションタイプ	[スクリプト] と [ウィザード] タイプのアクションのみ
状況に依存しないアクションをトリガする	状況に依存しないアクションは次の方法でトリガできます。 <ul style="list-style-type: none"> [ツール / アクション] メニューから アクションが機能ドメインに関連付けられている場合のナビゲーションバー上の [機能] タブから 	状況に依存しないアクションは、アクションが機能ドメインに関連付けられている場合は、ツリー構造ナビゲーションパネルからトリガできます。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
状況依存アクションをトリガする	<p>状況依存アクションは次の方法でトリガできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [ツール/アクション]メニュー ■ テーブルに関連付けられているショートカットメニュー。[アクション]サブメニュー 	<p>アクションは、リスト画面の一番上にある [状況依存アクション] リストからアクションを選択してトリガします。</p> <p>例：発注リストで注文品の受領を示すには、[状況依存アクション] リストから [受領] アクションを選択します。</p>
ウィザードで [AmMsgBox(strMessage As String, IMode As Long) As Long] APIの [IMode] パラメータを使用する	<p>表示されるすべてのダイアログボックスタイプがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0： [OK] ボタン付きのシンプルダイアログボックス。 ■ 1： [OK] と [キャンセル] ボタン付きのダイアログボックス。 ■ 2： [キャンセル] ボタン付きのダイアログボックス。 	<p>[OK] と [キャンセル] ボタンは実装されません。</p>
ウィザードで AmWizChain(strWizSqlName As String) APIを使用する	<p>strWizSqlNameパラメータで参照されるすべてのウィザードタイプをサポートしています。</p>	<p>"Root" ノードにMODAL=FALSEプロパティがあるウィザードのみがサポートされています (strWizSqlName パラメータによって参照されるウィザード)。</p> <p>"Root" ノードにMODAL=TRUEがあるウィザードは、MODAL=FALSEプロパティを持つと見なされます。</p>
同じページのフィールド値に依存する内容のウィザードページを更新する	<p>自動的に更新されます。</p>	<p>自動的に更新されません。</p> <p>いったんウィザードの前または次のページを表示して、更新が必要なページに戻る必要があります。</p> <p>使用できない場合もあります。</p>
ウィザードでグローバル変数を使用する	<p>グローバル変数は次のノードで定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Root ■ Long ■ String ■ Double ■ Date 	<p>グローバル変数は次のノードで定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Long ■ String ■ Double ■ Date

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
ウィザードで使用するDBEDITコントロールのTABLE=およびFIELD=プロパティを定義する	スクリプトを使ってこれらのプロパティを定義できます。	スクリプトを使ってこれらのプロファイルを定義することはできません。
ファイル処理に使用するBASIC関数のサポート	すべての関数がサポートされています。	AssetCenterデータベースへのファイルの保存のみサポートされています。
ウィザード実行時、ウィザードに関係のないAssetCenterウィンドウが表示されます。	これは、一部のウィザードで発生します。	これは発生しません。 これを行うと、AssetCenterは実行中ウィザードを停止し確認を求めます。

レポート機能

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
Crystal Reports統計を表示する	[ツール/レポート機能/Crystal Reports統計]メニュー	使用不可能
レポートを印刷する	[ツール/レポート機能/レポート]メニュー	使用不可能
フォームを印刷する	[ツール/レポート機能/フォーム]メニュー	使用不可能
詳細またはリストフォーム、詳細またはリストレポートを印刷する	[ファイル/印刷]メニュー	使用不可能
ソフトウェアのコントロールパネルを表示する	[ソフトウェア/コントロールパネル]メニュー	使用不可能

契約

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
アプリケーションサービス契約を管理する	[契約/アプリケーションサービス]メニュー	使用不可能
[一括発注]タイプの契約のみを表示します。	[契約/一括発注]メニュー	使用不可能
[マスターリース]タイプの契約のみを表示します。	[契約/マスターリース]メニュー	使用不可能
[リーススケジュール]タイプの契約のみを表示します。	[契約/リーススケジュール]メニュー	使用不可能
リーススケジュールにある資産を検収する	契約の詳細、[検収]ボタン	使用不可能
リーススケジュールにある資産を更新する	契約の詳細、[更新]ボタン	使用不可能
リーススケジュールにある資産を購入する	契約の詳細、[購入]ボタン	使用不可能

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
リーススケジュールにある資産を返却する	契約の詳細、[返却]ボタン	使用不可能
資産をリース明細に追加	契約の詳細、[資産(リース)]タブで、リンクを追加	使用不可能

調達

目的のアクション	Windowsクライアントを使用する	Webクライアントを使用する
調達トラッキング情報を表示する	依頼、見積、発注、受領伝票または請求書の詳細、[トラッキング]タブ	使用不可能

バーコード

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
カタログを印刷する	[ポートフォリオ/バーコードによる棚卸]メニュー	使用不可能

ファイナンス

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
税区分別に指定日に適用可能な税金のプレビューを表示する	[ファイナンス/税区分と税率]メニュー、[プレビュー]タブ	使用不可能

詳細機能

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
タイムゾーンを管理する	AssetCenterデータベースサーバとWindowsクライアントは、タイムゾーンの異なるコンピュータにインストールできます。	AssetCenterデータベースサーバ、AssetCenter Web Tierサーバ、およびAssetCenter Web Serviceサーバは、同じタイムゾーンのコンピュータにインストールする必要があります。クライアントステーションには異なるタイムゾーンを使用できません。

目的のアクション	Windowsクライアントを使用	Webクライアントを使用
Windows 2000、XP、または Server 2003統合セキュリティを使ってデータベースを接続する	使用可能	使用不可能
クエリを編集する	[ツール / クエリ] メニュー	使用不可能
カレンダーを編集する	[ツール / クエリ] メニュー	使用不可能
ニュースを編集する	[ツール / ニュース] メニュー	使用不可能
ワークフロータスクを管理する	[ツール / 進行中のタスク] メニュー	使用不可能
データベース画面のリストを表示します。	[管理 / 画面一覧] メニュー	使用不可能
ユーザプロフィール詳細の [プレビュー] タブを選択します。	このタブには、ユーザの権限とユーザプロフィールを組み合わせた結果が表示されます。	使用不可能
ユーザ権限を編集する	[管理 / ユーザ権限] メニュー	使用不可能
機能権限を編集する	[管理 / 機能権限] メニュー	使用不可能
データベースオプションを編集する	[管理 / データベースオプション] メニュー	使用不可能
ワークフロースキームを編集する	[ツール / ワークフロー] メニュー	使用不可能
接続を編集する	[ファイル / 接続の管理] メニュー	使用不可能
データをインポートする	[ファイル / インポート] メニュー	使用不可能
ユーザのAssetCenterパスワードを変更する	[ツール / パスワードの変更] メニュー	使用不可能
AssetCenterユーザにパスワードの変更を強制する	<ol style="list-style-type: none"> 1 ユーザの詳細を表示します ([ポートフォリオ / 部署と従業員] メニュー)。 2 [パスワード] (LoginPassword) フィールドを変更します。 3 [強制変更] (bResetPwd) オプションにチェックを付けます。 <p>次回ユーザがデータベースに接続すると、パスワードの変更を求めるウィンドウが表示されます。</p>	使用不可能

8 参考情報

接続

データベースへの接続を作成する

- 1 Windowsクライアントを起動します。



この機能はWebクライアントでは使用できません。

- 2 [ファイル/接続の管理]メニューを選択します。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 [接続]タブページに入力します。
 - 1 [名前]フィールドに、接続の名前を入力します。ここで指定した名前は、[ファイル/データベースに接続]メニューのダイアログボックスに表示されます。
 - 2 [説明]フィールドには接続の簡単な説明を記入します。
 - 3 [エンジン]フィールドのドロップダウンリストから、データベースエンジンを選択します。
- 5 エンジン固有の情報を入力します。
 - [データソース] : IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Serverデータベースへのアクセスを可能にするODBC

 **注意:**

MSDEデータベースの場合、「Microsoft SQL Server」を選択します。

- [サーバ] : データベースを格納しているOracleまたはSybase SQL Serverのサーバの名前
- [データベース] : ODBC接続名 (IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server) またはデータベース名 (Sybase SQL Server)
- [ユーザ] : データベースへのアクセス時にユーザを識別するログイン名 (IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server)
- [Oracleのアカウント] : 接続に使うOracleアカウントの名前。ログインとして使います。
- [Sybaseアカウント] : 接続に使うSybase SQL Serverの名前。ログインとして使います。
- [パスワード]
- [所有者] : データベースの所有者。データベースに送信するSQLステートメントの接頭語として使用されます。

6 [作成] をクリックします。

AssetCenterのすべてのユーザが、特定のデータベースへの接続を、異なる名前を使って複数作成できます。そのためには、[新規作成] ボタン、または [複製] ボタンを使用します。

[テスト] ボタンを使うと、次の操作を実行できます。

- データベース接続のテスト
- データベースが現在のAssetCenterバージョンと互換性があるかどうかのチェック

データベースに接続するには、[開く] ボタンを押します。これは、[ファイル / データベースに接続] メニューを選択するのと同じです。

 **重要項目:**

[所有者] フィールドでは、データベースのテーブルに含まれていないデータベースログイン ([ユーザ] フィールド) を承認できます。この場合、データベースに送信されるすべてのSQLステートメントには接頭語が付きます。例えば、データベースの所有者が「Joe」の場合、「select a from b」というSQLステートメントは次のようになります。

```
SELECT Joe.a FROM Joe.b
```

 **注意:**

[ファイル/接続の管理]メニューを使ってデータベースを作成することはできません。データベースを作成するには、AssetCenter Database Administratorを使用する必要があります。

データベースへの接続を削除する

次の手順に従ってデータベースへの接続を削除しても、データベースが壊れることはありません。

- 1 Windowsクライアントを起動します。

 **警告:**

この機能はWebクライアントでは使用できません。

- 2 [ファイル/接続の管理]メニューを選択します。
- 3 削除する接続を選択します。
- 4 [削除]をクリックします。

AssetCenterのパフォーマンス

低速ネットワークでAssetCenterを使う場合は、特定の要素（特に画像）の表示が遅くなることがあります。

その場合は、画像などの容量の大きいオブジェクトをクライアントのコンピュータのローカルドライブにコピーすると、プログラムのパフォーマンスを向上させることができます。このコピーを「キャッシュ」と呼びます。


キャッシュの仕組み

- キャッシュを作成すると、ローカルフォルダ（ディレクトリ）にファイルのセットが作成されます。
- ユーザが画像などの項目を要求すると、ソフトウェアによりこれらの項目がキャッシュにコピーされます。
- 大きな項目（画像、書式、データベース構造など）を表示するたびに、ソフトウェアにより、項目が変更されていないかどうかチェックされます。変更されていない場合は、キャッシュ内の項目が表示されます。変更されている場合は、キャッシュが更新され、正しい値が表示されます。

キャッシュを作成する

Windowsクライアント

- 1 [ファイル/接続の管理]メニューを使用して、接続のリストを表示します。

- 2 既存の接続を選択します。または新しい接続を作成します。
- 3 [キャッシュ] タブページの [ディスクキャッシュを有効にする] チェックボックスをオンにします。
- 4  ボタンを使って、[キャッシュのローカルフォルダ] を選択します。

 **警告:**

キャッシュサイズは1MBから20MBの間で設定します。キャッシュが最大サイズに達すると、必要に応じてキャッシュ内の最も古い項目が消去され、新しい項目が追加されます。

アクション

アクションは、AssetCenterから直接実行できるプログラムを呼び出す操作です。

アクションの作成




アクションの作成は上級ユーザのみが行ってください。

▶アクションの作成については、マニュアル『高度な使い方』の「アクション」の章に記載されています。

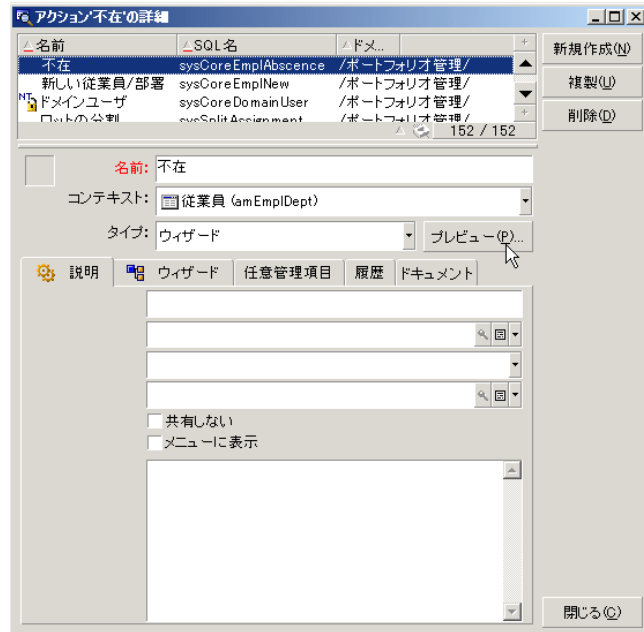
アクションの実行

Windowsクライアント

以下のいずれかの方法でアクションを実行できます。

- ツールバーのボタン  をクリックします。
ドロップダウンリストに使用可能なアクションの名前が表示されます。  ボタンをクリックするとアクションが新規に実行されます。アクションが既に実行されている場合は、  の代わりに、最後に実行されたアクションのアイコンが表示されます。
- [ツール / アクション] メニューで希望のアクションを選択します。
- アクションが機能ドメインに関連付けられており状況依存でない場合、ナビゲーションバーでアクション名を選択します。
- 状況依存アクションは、画面の詳細に表示されるボタンに関連付けることができます。そうすれば、ボタンをクリックしてウィザードをトリガすることができます。
例：従業員の詳細で、[+ 部署] ボタンをクリックすれば、部署を作成できます。

- アクションのプレビューから実行する。
 - 1 [ツール/アクション/編集]メニューでアクションのリストを表示します。
 - 2 アクションの[コンテキスト](SQL名: ContextTable)フィールドにアクションの参照テーブルが指定されている場合、[プレビュー]をクリックします。



- 3 ウィンドウの[コンテキスト]のドロップダウンリストに、テーブルのレコードが表示されます。このリストからアクションのコンテキストを選択します。
 - 4 [実行]をクリックします。
- ショートカットメニューの[アクション]メニューからアクション名をクリックします。

ヒント:

リストで複数のレコードを選択し、これらに1つのアクションを適用できます。

例

複数の資産を選択し、そのユーザーに同じメッセージを送信できます。

Webクライアント

状況に依存しないアクションは、アクションが機能ドメインに関連付けられている場合は、ツリー構造ナビゲーションパネルからトリガできます。

状況依存アクションは、リスト画面の一番上にある [状況依存アクション] ドロップダウンリストからアクションを選択してトリガします。

例：発注リストで注文品の受領を示すには、 [状況依存アクション] リストから [受領] アクションをトリガします。

アクション使用時の制限事項

▶アクション (ウィザードを含む) [献 113].

メッセージ

AssetCenterのユーザはメッセージを送受信できます。

新しいメッセージを読む

Windowsクライアント

受信したメッセージには、 [ツール / メッセージ] メニューのメッセージのリストからアクセスできます。

Webクライアント

ユーザ宛ての受信メッセージには、 [管理 / システム / 自分のメッセージ] メニューのメッセージリストからアクセスできます。

参照オブジェクト

Windowsクライアント

[参照オブジェクト] ボタンを使用すると、メッセージに関連するレコードに直接アクセスできます。例えば、ユーザに新しい購入依頼が提出されていることを示すメッセージの場合、このボタンをクリックすると、この購入依頼の詳細情報に直接アクセスできます。

Webクライアント

この機能は使用できません。

新規メッセージのチェック

Windowsクライアント

[編集 / オプション] メニューの [メッセージ] オプションで定義した定期チェックの間隔で、メッセージの受信が通知されます。

データベースへの接続時に、接続前に受信したメッセージなどの未読メッセージが検出されると、メッセージを読むように促すダイアログボックスが表示されます。

セッション中に新規メッセージを受信すると、同様なメッセージが表示され、メッセージを読むようにユーザに促します。

Webクライアント

データベースに接続した後、未読メッセージがある場合はメッセージを読むリンクをクリックします。

ユーザがメッセージを読むためのリンクをクリックすると、ウィザードが開きます。

履歴

AssetCenterの特定のフィールドおよびリンクに加えられた変更の履歴を、保存することができます。

変更履歴を設定する

Windowsクライアント

- 1 データベースへ接続します。
- 2 変更履歴を保存するフィールドまたはリンクを含むテーブルから、レコード詳細を表示します。
- 3 ショートカットメニューから [オブジェクトの設定] を選択します。
- 4 [履歴保持] フィールドを選択します。
- 5 フィールドを [はい] または [スクリプト] に設定します。
- 6 変更を保存します ([OK] ボタン) 。

Webクライアント

この機能は使用できません。


AssetCenter Database Administrator


- 1 データベースへ接続します。


- 2 変更履歴を保存するフィールドまたはリンクを含むテーブルの詳細を表示します。
- 3 [スクリプト] タブを選択します。
- 4 [履歴保持] フィールドを選択します。
- 5 フィールドを [はい] または [スクリプト] に設定します。
- 6 テーブルに加えた変更を保存します ([変更] ボタン)。
- 7 変更をデータベースに保存します ([ファイル/データベース構造の保存] メニュー)

履歴項目を削除、表示、または追加する

履歴項目は、レコード詳細の [履歴] タブに表示されます。


必要に応じて、 ボタン (Windowsクライアント) または [追加] ボタン (Webクライアント) を使って、履歴項目を手動で追加することもできます。

履歴項目を削除するには、 ボタン (Windowsクライアント) または [削除] (Webクライアント) ボタンを使用します。

履歴項目を表示または変更するには、 ボタンを使用 (Windowsクライアント) するか、履歴項目をクリック (Webクライアント) します。

アラーム

Windowsクライアント

フィールドの右側にアラームアイコン  が表示される場合は、アラームを設定することができます。アラームに設定した日付に応じて、AssetCenterのアクションテーブルのアクションが起動します。

アラームは、特定の日付に近くなるとトリガされます。AssetCenterでは、様々な操作にアラームを使用できます。

一般に、アラームが起動するアクションは、AssetCenterのユーザに期限 (契約期間の満了など) が近づいていることを警告するメッセージの送信などです。

AssetCenterのユーザは、1つまたは2つのレベルのアラームを作成できます。各レベルに期限と起動するアクションを定義します。

2つのレベルをアラームに設定する場合は、第1レベルのアラームで実行したアクションによって、第2レベルのアラームがトリガされるかどうかが決まります。

- 第1レベルのアラームが、AssetCenterの内部メッセージシステム以外のメッセージシステム (サードパーティのメッセージシステムなど) でメッセージを送信するアクションを起動した場合は、第2レベルのアラームは常に定義された時間にトリガされます。

- 第1レベルのアラームにより、内部メッセージシステムでAssetCenterユーザのグループにメッセージが送信され、受信者の誰かがそのメッセージを開封した場合は、第2レベルに定義されているアクションはトリガされません。

Webクライアント

この機能は使用できません。

マウスを使用しないナビゲーション

Windowsクライアント

マニュアル▶ 『アクセシビリティオプション』の「Mouseless navigation (マウスを使わないナビゲーション)」の章

Webクライアント

マウスを使わないWebクライアントのナビゲーション方法の詳細については、インターネットブラウザの説明書を参照してください。

エラーメッセージ

操作を実行できない場合や問題が発生した場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージに問題の原因が明確に記載されているため、このマニュアルでは、個々のメッセージの説明を省きます。

Windowsクライアント

エラーメッセージウィンドウには、エラーメッセージをファイルとして保存できる [保存] ボタンがあります。

また、[コピー] ボタンをクリックすると、クリップボードにエラーメッセージをコピーできます。

Webクライアント

エラーメッセージは、Webページのテキストをコピーする場合と同じようにコピーできます。

インデックス

- アクション, 122
 - プレビュー, 123
 - レコード-選択, 123
 - 作成, 122
 - 実行, 122
- アラーム, 126
- インストール済みコンポーネント, 30
- ウィザード, 83-86
 - クエリウィザード (QBE), 73
 - トリガ
 - 状況に依存しないウィザード, 85
 - 状況依存ウィザード, 85
 - ナビゲーション, 86
 - ユーザ, 84
 - 更新, 86
 - 作成, 85
 - 使用, 85
 - 定義, 83
 - 表示の優先度, 29
 - 分類, 84
- エクスポート
 - レコードリスト, 47
 - 注意事項, 49
 - 複数のレコードの変更, 60
- エラー, 127
- オブジェクトの設定 (メニュー), 125, 57
- オプション, 56
- オンラインヘルプ, 14
 - Basicスクリプト, 15
 - ツールのヒント, 30
 - フィールドとリンクのヘルプ, 15
 - ワンポイント, 16
 - 一般的なヘルプ, 15
- お気に入り, 29
- カスタマイズ
 - ツールバー, 27
- キャッシュ, 121
 - サイズ, 122
 - 概要, 121
 - 更新, 62
 - 作成, 121
- キャッシュの更新 (メニュー), 62
- キャンセル (ボタン), 60, 52, 52
- クエリ (参考 フィルタ)
- グループ分け, 36
- このフィールドで検索 (メニュー), 79
- このフィールドに関する統計 (メニュー), 44
- このフィルタを削除 (メニュー), 78
- このリンクで検索 (メニュー), 79

- このリンクに関する統計 (メニュー), 44
- この列に関する統計 (メニュー), 44
- この列をリストに追加 (メニュー), 40
- この列を削除 (メニュー), 40
- コピー, 67
- コメント (テーブル), 65
- システム - 情報, 30
- ジャンプ (メニュー), 45
- スケジュール
 - カスタマイズ, 93
 - 概要, 87
 - 休日, 93
 - 実用例, 90
 - 追加, 88
 - 表示, 88
- ステータスバー, 27
- タブページ, 53
- タブ内のリスト
 - タブ形式で表示する, 54
 - リスト形式で表示する, 54
 - リンク
 - コピー, 54
 - 削除, 55, 54
 - 詳細, 54
 - 切り取り, 54
 - 追加, 54
 - 貼り付け, 55
 - 複製, 54
- ツールのヒント, 30
- ツールバー, 27
- ツールバーのカスタマイズ (メニュー), 27
- ツリー構造で表示 (メニュー), 34
- テーブル
 - (参考 検索)
- テキスト (参考 データ)
- デフォルト値, 64
- データ
 - コピー, 67
 - デフォルト値, 64
 - 削除, 68
 - 収集, 84
 - 切り取り, 66
 - 貼り付け, 67
 - 注意事項, 68
 - 入力, 84

- 編集, 64
- データベース
 - (参考 接続)
 - DBMS, 17
 - 開いているデータベース, 30
 - 階層型モデル, 18
 - 概要, 16
 - 関係型モデル, 19
 - 作成, 121
 - 定義, 16
- データベースに接続 (メニュー), 120, 25, 24
- データベースの接続解除 (メニュー), 26
- データベース管理システム (参考 DBMS)
- データベース設定の保存 (メニュー), 64
- ドロップダウンリスト, 44
- ナビゲーション
 - マウスを使用しない, 127
- ナビゲーションバー, 28
- パスワードの変更 (ブラウザ), 24
- パスワードの変更 (メニュー), 24
- パフォーマンス
 - (参考 キャッシュ)
- ビュー (メニュー), 22
- フィールド, 19
 - オンラインヘルプ, 15
 - 特殊フィールド, 65
 - 必須フィールド, 59, 57
- フィールドのヘルプ (メニュー), 15
- フィルタ, 74
 - 2つ以上適用, 75
 - クエリフィルタ, 80
 - シンプルフィルタ, 79
 - タイプ, 74
 - 使用, 77
 - 操作, 76
 - 比較演算子, 77
- フィルタなし (メニュー), 78
- フロアプラン - オブジェクトの追加, 47
- マウス (参考 ナビゲーション)
- メッセージ, 124
 - エラー, 127
 - 参照オブジェクト, 124
 - 受信メッセージ, 125
 - 新規メッセージ, 124
- メニュー, 26

- ショートカットメニュー, 26
- メニューバー, 26
- ライセンス, 26
- メニューバー, 26
- リスト, 19
 - 仮想階層のキャンセル, 37
 - 仮想階層の作成, 36
- リストと詳細 (メニュー), 50, 35
- リストのエクスポート (メニュー), 49, 47
- リストのみ (メニュー), 50, 35
- リストの設定 (メニュー), 80, 78, 76, 41, 38
- リスト形式で表示 (メニュー), 34
- リンク, 65
 - オンラインヘルプ, 15
- リンクの追加 (メニュー), 55
- レコード, 19
 - (参考 検索)
 - グループ分け, 36
 - デフォルト値, 59, 57
 - リスト (参考 レコードリスト)
 - 検索, 45
 - 作成, 56
 - 削除, 63
 - 注意事項, 63
 - 処理, 56
 - 詳細, 49
 - アクセス, 49
 - ウィンドウ - サイズ, 51
 - タブページ, 53
 - ナビゲーション, 56
 - ボタン, 51
 - リスト - 表示, 50
 - 選択, 46
 - 複製, 62
 - 変更, 59
 - 他のユーザによる, 61
 - 複数のレコード, 60
- レコードのリスト
 - ナビゲーション, 32
 - 使用, 31
- レコードリスト, 31
 - (参考 印刷)
 - (参考 検索)
 - エクスポート, 47
- ツリー構造, 33
- ボタン, 33, 32
- レイアウト, 39
- 階層構造, 33
- 概要, 31
- 検索, 45
- 詳細 - 表示, 50
- 設定, 41, 38
- 選択, 46
- 読み込み, 32
 - 進行状況, 32
- 表示, 33
- 表示 - パラメータ, 38
- 並べ替え, 39
- 列
 - 削除, 40
 - 追加, 40
 - 幅, 40
- レポート
 - (参考 印刷)
- ワークスペース, 26
- ワンポイント, 16
- ワンポイント (メニュー), 16
- 印刷
 - プレビュー, 98
 - リスト, 96
 - 概要, 95
 - 詳細, 97
- 横長ウィンドウに切り替え (メニュー), 51
- 仮作成の許可 (メニュー), 57
- 仮作成 (ボタン), 57
- 画像, 70
- 画面一覧 (メニュー), 31
- 開始, 21
 - Windowsのメニュー, 21
 - コマンドライン, 22
 - スペース, 23
- 階層の表示 (メニュー), 34
- 階層構造
 - 変更, 35
- 階層 - 変更, 35
- 拡張削除の許可 (オプション), 64
- 機能, 28
- 起動 (参考 開始)
- 休日, 93

- 検索, 73-81
 - クエリウィザード (QBE), 73
 - フィルタ (参考 フィルタ)
- 更新 (メニュー), 77, 61
- 行, 19
- 作成 (ボタン), 52, 33
- 削除 (ボタン), 33
- 参照オブジェクト (ボタン), 124
- 時刻, 69
- 縦長ウィンドウに切り替え (メニュー), 51
- 書式
 - (参考 印刷)
- 詳細, 19
 - (参考 印刷)
- 詳細設定 (ボタン), 57
- 詳細 (ボタン), 33
- 新規作成 (ボタン), 58, 56, 33
- 切り取り, 66
- 接続, 23
 - NTセキュリティ, 25
 - 作成, 119
 - 削除, 121
 - 接続解除, 26
 - 標準の接続, 24
 - 複数のデータベース, 23
- 接続の管理 (メニュー), 119, 24, 22
- 接続解除, 26
- 貼り付け, 67
- 統計
 - グラフ表示, 45
 - 表示, 44
- 統合NTセキュリティ使用 (オプション), 25, 24
- 日付, 69
- 日付+時刻, 69
- 表示
 - 優先度, 29
 - 表示の優先度, 29
- 複製 (ボタン), 63, 62, 56, 33
- 複製 (メニュー), 62
- 並べ替え, 39
- 閉じる (ボタン), 33
- 変更, 61
- 変更 (ボタン), 60, 51
- 保存 (ボタン), 58, 33

- 履歴, 125
 - 削除, 126
 - 設定, 125
 - 追加, 126
 - 表示, 126
- 列, 19
 - 削除, 40
 - 追加, 40
 - 幅, 40

A

- AssetCenter Server, 65
- AssetCenterのバージョン, 30
- AssetCenterのバージョン情報 (メニュー), 30, 30

B

- Basicスクリプト - オンラインヘルプ, 15
- bin (フォルダ), 22
- bmp (ファイル), 70

C

- Crystal Reports (参考 印刷)

D

- DBMS, 17
- DLL, 30

F

- F5 (キー), 61

I

- ico (ファイル), 70

Q

- QBE, 73

W

- Webクライアント
 - Windowsクライアントとの違い (参考 WebクライアントとWindowsクライアントの違い)

WebクライアントとWindowsクライアントの
違い, 99

 アクション (ウィザードを含む), 113

 インストール, 100

 グラフィカルインタフェース, 101

 バーコード, 116

 ファイナンス, 116

 ヘルプ, 113

 リスト, 104

 レコードのアクション, 111

 レポート機能, 115

 概要, 99

 契約, 115

 詳細, 108

 詳細機能, 116

 接続, 100

 設定, 100

 調達, 116

Windowsクライアント

 Webクライアントとの違い (参考 Webク
 ライアントとWindowsクライアントの違い)

wmf (ファイル), 70

